

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0 / A ¥ 1 8 9 0 / B ¥ 2 0 9 0 / C ¥ 2 2 5 0 / D ¥ 2 4 9 0}

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

Fairport(P16) England(P26)

[Blu-ray/UK] PAL Region 0

- *ALLAN TAYLOR:50 Years On The Road ¥2650
(2016年5月、ドイツのノルトハイムで行われたAllan Taylorの弾き語りによるライブ。半世紀に及ぶ音楽活動を振り返る選曲で、実際と心の旅を続けるAllan Taylorの真骨頂のシンプリシティに徹した心温まる全13曲。尚、ヨーロッパ方式で日本とは異なるため、専用のプレイヤーで再生可。最近の日本のプレイヤーでは再生可との情報だが、従来のプレイヤーでは、音楽のみの再生になる。2017作。Stockfish)

[DVD/UK] NTSC all regions

※国内製DVDプレイヤーで再生可能

- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES ¥1500
:Live At Stazione Birra, Rome
(Albert Lee&Hogan's Heroesのローマでの約2時間の白熱のライブ。70年代のAlbert Leeのスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全25曲。112分。2009作。Heroic)
- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES:Live In Paris ¥1500
(2003年パリでの約2時間のライブ。どっぷり70年代スタイルのカントリー・ロック～南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全22曲。102分。Heroic)
- *JOE COCKER:In Concert A
(81年の白熱のコンサート・ライブ。"Feelin' Alright", "A Whiter Shade Of Pale", "Watching The River Flow", "Delta Lady", "You Are So Beautiful", "With A Little Help From My Friends"他Joe Cockerの十八番アルバムレートの13曲。スワンビークな南部ロックも最高。2003作。トイAlpha Centauri)
- *MEIC STEVENS:An Evening With Meic Stevens C
(2007年7月、ロンドンでのライブ。デビュー時は「ウェルズのホフ・テイラン」と呼ばれたこともあったMeicだが、今は齢を重ねたRandy Newmanのようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSWの中のSSWを実感させる全15曲収録のライブ映像だ。2008作。Sunbeam)
- *ERIC CLAPTON:Music In Review A
(YardbirdsやCream時代そして70年代になってからの希少映像を挟みながらJack Bruceや"Cream"の著者Chris Welch等がE. Claptonを語るドキュメンタリーDVD。"Layra", "I Shot The Sheriff", "Sunshine Of Your Love", "Crossroads", "It's Too late", "Wonderful Tonight" and more. 61分。Sandbeach)
- *VAN MORRISON:Under Review 1964-1974 A

(様々なライブ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら彼の音楽変遷をアルバムごとに詳細に紹介するドキュメンタリー-DVD。112分。2008作。Sexy Intellectual)

- *LINDISFARNE: Classic Rock Legends B
(Lindisfarneの白熱ライブ。“Lady Eleanor”, “Meet Me On The Corner”, “Roll On That Day”, “Everything Changes” 等等など11曲。80分。2001作。Carlton International Media)

[LP/UK, IRELAND]

- *TIR NA NOG: The Dark Dance ¥2790
(250枚限定LP盤。Sonny CondellとLeo O' Kellyのアイリッシュ・フォーク・デュオ“Tír na nÓg”のスタジオ録音盤としては、1973年の“Strong In The Sun”以来の四枚目となる新作。Sonny Condellの2013年のソロ“Swallows And Farms”などを通して、今もなお“Tír na nÓg”流の音楽を創作していることを知っているから、そうも驚かなかったが、1970年代の夢想的ブリティッシュ・フォークの香りが充満した二人の唄とギター・サウンドは、あの時代の“Tír na nÓg”の音楽の空気感に信じられないほど充ちていて、ファンは極楽必至。Tír na nÓgは不滅。2017作。Mega Dodo)

[CD/UK, IRELAND]

(FOLK, SSW, ROCK)

- *BRIAN FLANAGAN: Where Dreams Are Made ¥2650
(ハイブリッドSACD。アイルランド人SSWで、これほど胸キュンな男性SSWは、昔Jimmy McCarthyと出逢ったとき以来だろうか。風の流れるような自然な抑揚感のあるメロディーと内面からわき上がってくるような詩情豊かなヴォーカルは、久しぶりの格別の味わい。これほど繊細な表現力を持ったSSWは、もう長い間出逢えていなかった。Ian Melrose {各種ギター}, Jens Kommnick {ギター、リブ・アップ、ブラスキー}, Lutz Moller {ハーフ}, Hans-Jorg Maucksh {フルート&エレキベース} 他による伴奏は、アコースティックな高音質にこだわるStockfishらしい、少しアイリッシュな香りを漂わせた夢のような音空間を創りだして、Brianの極上の唄にとけ込んでいる。芸術品の域。2017作。Stockfish)
- *JOHNNY COPPIN: All On A Winter's Night C
(デビュー当初から愁いのあるブリティッシュ・フォークで魅了してきたJohnny Coppinの待望の新作。聴いた時期が良かったのか、新春仕事始めに聴いたJohnny Coppinの冬向きの唄の数々は、どの唄も誠実で初々しくかつ愁いがあるって、心身の芯からリフレッシュさせられる120%J. Coppinな純良ブリティッシュ・フォーク。今年で72歳になる彼のハイトーンヴォーカルと清々しい英国フォーク・サウンドは、まるで今が旬のように愁いを保ちながら輝いている。彼のベストの出来映え。w. Paul Burgess, Dik Cadbury, Karen Tweed, Geoff March, Steve Trigg, David Pickering-Pick. 2017作。Red Sky)
- *GLEN HANSARD: Between Two Shores B

(単にジャケットが気になって、仕入れて聴いたら、大当たりのアイ
ルランド人 SSW、Glen Hansard の三作目に当たる新作。彼の
Frankie Miller をも想起させるソウルフルなヴォーカルは、たっ
ぷり余裕があって、かっこよく、加えて、どういう連中か知らない
が、ホーンを含めたロックは、熟達した感のある米国南部志向の
ロックで、全ての南部風要素をミックス・ジュースにしたような
上質の旨みがあるロック。明らかに米国の南部志向音楽に影響
を受けたであろう SSW だが、そうした音楽性を志向しつつ、独自
の唄の世界とロックの世界を体現していて、凄い。初めて出逢っ
た本作で既に揺るぎない実力派だ。2018 作。Plateau)

*BOB KNIGHT: Meet Me On The Moor B

(スコットランドのジプシーのトラヴェラー・シンガーに影響を受
けたというスコットランドの SSW、Bob Knight の新作は、過ぎ去り
し日々を懐かしくうたったような滋味豊かな SSW アルバム。自身
のギターのエレキ語りを中心に終始穏やかなペースで穏やかな唄
をうたう。そして Johnny Hardie のフィドル、Kenny Hadden のホ
イッスル、Steve Ronsome のハーブがスコティッシュな哀愁を添
える。秋の夜長に心に響く唄たちだ。2017 作。Bob Knight)

*ALLAN TAYLOR: Behind The Mix B

(2000 年作“Colour To The Moon”の限定ボックス版 [廃盤] のボー
ナス CD “Behind The Mix”の再発盤。前半の数曲が Allan Taylor の
ソロで、残りが Allan Taylor & Derroll Adams のデュオ曲という構
成。“Colour To The Moon”収録直前に亡くなった Derroll Adams
[1925-2000] の追悼盤の印象。気心を知った二人の息の合った演
唱に心 and 魂。全 15トラック。P22 のブックレットでは思い出の写真
も挿入。2000 年/2017 作。Stockfish)

*WINTER MOUNTAIN: I Swear I Flew A

(Winter Mountain 名義の本作は、英国コーンウォールの SSW の Joe
Francis のソロ。ソロだが、Seth Lakeman とのデュオを要にした音
楽は、「一人イーグルス」の印象を持つ足腰のしっかりしたフォーク
・ロックで、心をワクワクさせる。Joe の唄は、端正で、朝日に向
かってまっしぐらな感じだ。アコースティック & エレキギターも
スティール・ギターもドラムスも前向きな輝きがあって、気分も
シャンとする。2016 作。Astral Foc)

*NED ROBERTS: Outside My Mind B

(1970 年代の SSW 風ジャケット・デザインと LP ジャケットのような
ジャケットの紙質、中身は 1970 年代の陰りの感じられる英国 SSW
っぽいヴォーカルとサウンド。録音は米国のロスで、Ned のギター
のエレキ語りベースだが、音が 1970 年代初期の米国ロックを志向し
た心あるブリティッシュ・フォーク～ロックの匂いをほのかに立
てていて、ニンマリ。希有な SSW アルバム。2017 作。Aveline)

*ALISON O' DONNELL: Climb Sheer The Fields Of Peace B

(Mellow Candle の Alison O' Donnell の新作。Mellow Candle 時代の
音楽、その美意識と通底する音楽を齢を重ねた Alison がひとり、
今の目線で創作したのが本作という印象。Alison の頭の中は独自
の「夢のようなドラマ」を創作すること。そのための助っ人に選ば

れたのが、アイルランド人ギター&電子楽器奏者でSSWでもある Dave Colohan。DaveはAlisonが描く唄の世界に寄り添い、必要最小限の微細で美しい音響を創作し、音でAlisonの頭にある「夢のようなドラマ」を彩る。10月5日で65歳になったAlisonのまろやかな渾身作。2017作。Mega Dodo)

- *ALISON O' DONNELL: Hey Hey Hippy Witch A
(Mellow CandleのAlisonの2009年作。12トラック+1ボーナス・トラックの全13トラック。全曲自作曲。Alisonのヴォーカルは終始優美で穏やか。ことさらにフォーク・ロックの衣装で、或いはケルトの衣装で着飾ることはなしに、ただ一人のSSWとして、自分の唄を誠実にうたっていて、それだけで滋味豊か。2009作。Freeworld)
- *ALISON O' DONNELL & ISABEL NI CHUIREAIN: Mise Agus Ise A
(そのAlisonとアコ、キーボード奏者のIsabelとによる故郷アイルランドのルーツに根ざしつつ、ロックやジャズの要素も融合させた秀逸作。元Mellow CandleのDavid Williams {ギター、フイドル、マンドリン}が参加。2006作。Osmosys)
- *ALI MAAS & MICKY MOODY: Black & Chrome B
(とびっきり本醸造なルーツロック。女性シンガーのAliは、百戦錬磨の上のゆとり感の溢みとコシと伸びのあるヴォーカルで圧巻だし、相方のMickyは、SSW系名盤“Young&Moody”の片割れのMicky Moodyで、つぼを得たスライド&エレキギターと二流センスのヴォーカルは、年季が入ってこれまた圧巻。2016作。Armadillo)
- *SONNY CONDELL: Swallows And Farms A
(Tir Na nOg {ティル・ナ・ノグ}のSonny Condellのギター弾き語りの2013年作。唄も緑の楽園に住む吟遊詩人っぽくて、70年代の夢見るブリティッシュ・フォーク・シンガーの花畑~田園の夢世界ムードにほんわかと包まれていて、信じられないほど夢見心地な音楽。彼の気ままに吹く風のようなふわふわな唄とクリスタルな輝きを放つ彼の独特なアコースティック・ギターのサウンドが織り成す最高に極楽なSSW音楽の世界だ。2013作。Irish World Music)
- *RALPH McTELL & WIZZ JONES: About Time A
(本作は50年前にRalph McTellがWizz Jonesの招待を受けて共演したのを記念して、今度はRalph McTellがWizz Jonesを招待して実現した二人の初共演盤。二人の阿吽の息は見事で、もう何十年もデュオとして活動してきたかのように、ヴォーカル・ハーモニーも、ギター演奏も決まっている。2016作。Leola)
- *WIZZ JONES, PETE BERRYMAN & SIMEON JONES
: Come What May B
(おそらくW. Jones {ヴォーカル、ギター}がP Berryman {ヴォーカル、ギター}とS. Jones {サクソ、フルト、ヴォーカル}を誘って制作された「真夏の夜の夢」のようなW. Jones流ブリティッシュ・フォーク。ボーナス曲三曲を含めた全14曲の内、P Berrymanがヴォーカルの主導権を取るの三曲のみ。しかしP Berrymanの唄はすこぶる穏やかで、W. Jonesの浮遊する音楽にとけ込んで聞こえる。その内の一曲はSSWのAnne Sumnerとのデュエットで、泣けるほど心優しい曲。W. Jonesの“Right Now”を初めて聴いてから40数年。今なおあの頃味わった

- 音楽と似た感動が味わえるとは！Riverboat)
- *JENNIFER CROOK: Carnforth Station A
 (ハープ奏者でSSWのJennifer Crookの三枚目。旅の思い出など、Jenniferが紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生するメロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする気分。Jennifer {ヴォーカル、ハープ 他}にEliza Carthy BandのBeth Porter {チェロ、フィドル、ハーモニウム・ヴォーカル}、Jackie Oates BandのMike Cosgrave {ギター、アコ、ハーモニウム・ヴォーカル}のトリオ編成。ピカー。2014作。Long Tale)
- *GOAT ROPER RODEO BAND: Cosmic Country Blue B
 (このウエールズの三人組のGram Parsons風カントリー・ロックの何と胸キュンなこと！メンバーはTomas Davies {ダブルベース、ヴォーカル}、Jim Davies {リードギター、ヴォーカル}、Sam Roberts {リズムギター、ヴォーカル}。誰がリード・ヴォーカルかわからないが、G. Parsonsのヴォーカルの甘み濃くして、フレンドリーな親しみやすさを濃くしたような心ほんわかになる、個人的に理想のカントリー・ロック。2016作。Aveline)
- *DAVID HUGHES: I Can Explain A
 (Jacqui McSheeとGerry Conwayがほぼ全曲でバックキングの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと70年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。ブリティッシュ・フォークの名盤。w. Bert Jansch, Helen Watson, Chris White, Julie Matthews, Martin Brunnsden。2004作。Folkcorp)
- *LYLE McGUINNESS BAND: Acting On Impulse D
 (台風で屋根が飛んだときの被害盤。ジャケット裏面に水に濡れた痕跡以外は新品同様。1988作。Line)
- *KIERAN HALPIN: Akoustik D
 (SSWアルバムの名盤。1992作。Kieran Halpin)
- *HUW AND TONY WILLIAMS: Junction Twenty Six ¥2800
 (ブリティッシュ・フォークの名盤。1991作。Steam Pie)
- *HENRY McCULLOUGH BAND: FBI Live (2007作。Mundell Music) D
- *HENRY McCULLOUGH BLUES BAND: Belfast To Boston D
 (2001作。Walk Away)
- *TONY REIDY: Round Tower Blues A
 (世の中可笑しなおっさんSSWがいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、このTonyのうたは何ともほっこり。Michael Hurleyに似た雰囲気もあることはあるが、このおっさんTonyは物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるもののJohnny Duhanのような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015作。Tony Reidy)
- *MICHAEL WESTON KING: Live... In Dinky Town A
 (何とも物悲しい響きのギターの弾き語りライブ。Tim Hardinの名盤“The Homecoming Concert”くらい身にしみる。2002作。Twah!)

- *KRIS DREVER:Black Water & Live A
(リマスター・デラックス版。二枚組。2012 作。Reveal)
- *PAUL MILLNS:Unsang Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music))
- *MARY HAMPTON:My Mother's Children B
(Vashti Bunyan 等 1970 年代のブリティッシュ・フォークの香りのちよっと不思議な雰囲気的女性 SSW。夢想の世界をか細い、少し震える声でうたう。自身のギターやピアノを中心にした鳥のさえずりなども取り込んだサウンドで、「壊れやすさ」で完璧。2008 作。Navigator)
- *SAFFRON SUMMERFIELD:The Stonemason's Dream A
(地震で発見。英国のカントリーサイドの穏やかさが感じられる Saffron のたおやかなギター [1972 年製 Guild D35] の弾き語り。Robert Jarvis のトロンボーンがのどかさを運ぶ。アイルランドの伝統曲 "The Dawning Of The Day" のメロディを拝借した "On Raglan Road" 他全 9 曲。のほほーん。2002 作。Mother Earth Music)
- *HUW M:Gathering Dusk A
(まるで 70 年代の夢見る SSW のような、同じウェールズの Meic Stevens の唄にも通じるような魅力的なアルバム。彼の唄の世界は夢うつな世界。朝日の中で、夕日の中で、その心地よい時間の流れを楽しむかのような穏やかで美しい唄の数々。自身が爪弾くギターをはじめ、アコースティックなサウンドも彼の唄の色に彩られている。Bethan Reynolds とのハーモニーと共に夢の世界へ。朝、目覚める頃、夢うつなまどろみの中で聴きたい。発売年は 2011 年。Gwymon)
- *JAKE WALTON:Silver Muse B
(新曲に過去の曲を加えて新録した本作は、"The Gloaming Grey" を包んでいた英国的愁い [その愁いはケルトの神話への愛着や故郷コーンウォールへの想いに発する愁いなのだが] が、同じように感じられるアルバムとして美しく結実。Jake 自身、自分の歩みを振り返りつつ、同時に改めて自身の音楽のルーツを確認し、新たな気持ちで音楽する快さに充ちている。伴奏は Jake のギター、ダルシマー、ハーディ・ガーディと Eric Liorzou のマンドーラ、ギターの二人の演奏を軸にしている、そのアコースティックな響きが、本作の新鮮さを高めている。全 15 トラック。2015 作。Celtic Monkey)
- *LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR:The Birds Never Cease A
(アイルランドのウォーターフォードの SSW の Liam Merriman が同郷の Eoin O' Meachair [ハヅヨ、マンドリン、ホイッスル] をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。Liam 自身は Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうで、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが気持ち良い。2015 作。Three Rivers)

- *CATHERINE HOWE:Because It Would Be Beautiful B
 (かつて1970年代、ブリティッシュ・フォーク界の歌姫だった Catherine Howe の新作。Vo Fletcher [ギター], Ric Sanders [ヴァイオリン], Michael Gregory [ドラム] がバックを務めていて、Vo Fletcher のミステリアスなギターをフィーチャーした弾き語りのフォークとバンド形式のフォーク・ロックとが混在したスタイルを取っている。Catherine 様を中心に同窓会的雰囲気楽しい。2015 作。Talking Elephant)
- *ALISTAIR OGILVY:July Moon C
 (スコットランドのSSWとして大物の器のAlstairの2014作。Alstairの唄は歌唱力に相応しく雄大。しかも雄大であり、かつ繊細。スコットランド風の叙情も感じられる。根っこの部分に、Runrigのようなスコットランド魂が感じられる。ゲスト:Karen Matheson。2014作。July Moon)
- *LESLEY CURTIS:Looking For The Girl A
 (女性SSWのLesley Curtisの信じられないほど美味なアメリカなロック。エレキギター、スティールギター、トブロー、マンドリン、オルガン、ベース、ドラム等の楽器編成のロックは、1970年代の頃あたりの爽やかなカントリー・ロック風で、Lesleyの唄は爽やかに輝いている。ある意味時代遅れのアナログなカントリーロック風サウンドだが、たつぷりと自分の好みのサウンドに充ちたサウンドの中でうたうLesleyの唄は清々しくて何とも心地よい。2015作。Curly Lettuce Production)
- *JASON STEEL:Fire Begot Ash A
 (70年代SSWファン、ブリティッシュ・フォーク・ファンはニンマリ一枚。ギター、或いはバンジョーを爪弾きうたうJ. Steelの音楽は、Michael Hurley風の気楽さと英国の田舎っぽさとBert&John風ギター等が混ざり合った心地よい音楽。最愛聴盤。Rif Mountain)
- *STEVIE PALMER:Heartprint Shadow A
 (イアン・マッシュューズを想起させるヴォーカルと曲によってはヘロンを想起させる牧歌&夢想フォーク・サウンドは心穏やか。夢想的で信じられないほど歌詞が詩的で心優しい唄ばかり。w. Mary MacMaster, Steven Polart, Kim Edgar, Wendy Wetherby, Allan Knox。2010作。Greentrax)
- *MARY JANE:Tacit A
 (70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求めるMary Janeの3枚目はライブ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Treesのライブが好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”, “She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000作。Seventh Wave)
- *THE STEPPES:Drop Of The Creature a
 (アイルランド・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。Delerium)
- *STONE ANGEL:East Of The Sun B
 (Stone Angelの素晴らしいNew。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。2001作。Kissing Spell)

- *VASHTI BUNYAN:Lookaftering A
 (二枚目。薄型ジュエル・ケース仕様のサンプル盤。2005年。Fat Cat)
- *SUSAN McKEOWN:Belong C
 (アイルランド人女性シンガーの Susan McKeown の 2014 年作。本作はこれまでのアルバムの中で異色。Maria Muldaur のようなノスタルジック・ムードの
 声が裏返る唄やクリスマス風安酒場っぽい唄など、ひと味違う。大人の女性ムードの魅惑の SSW アルバムなのだ。2014 作。East River Music)
- *JOHN MARTYN:No Little Boy ¥1000
 (w. Levon Helm, Gerry Conway, Spencer Cozens, Dave Gilmour, Phil Collins, Alan Thompson, etc. 1993 作。Parmanent)
- *STEVE TILSTON:The Reckoning B
 (ブリティッシュ・フォーク・ギター奏者として、かつシンガーとして大ウエーランの Steve の本作は全て自作作曲。気高く繊細で、かつ気品のあるギターの響きとクリアとして穏やかな唄は愛おしいほど美味。英国フォークの名盤。2011 作。Hubris)
- *ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A
 (異色のデュオ。それぞれのソノの持ち味とデュエットがバランスよく収められた友情盤。2001 作。ドイツ Blue Rose)
- *LUCY WARD:Single Flame B
 (若き女性 SSW の Lucy Ward は、2012 年、BBC のフォーク部門で「新人賞」に当たる“Horizon Award”を授賞。本作は二枚目。Lucy が作る唄は独特だ。英国の昔話、特に不気味な話や不思議な話が好きで、そんな世界を自分で創作して唄にした感じで、音楽が彼女の世界、宇宙として結実している。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲「神様、私は嵐の中で死にたくありません」〔船津訳〕は、June Tabor のトラッド的世界にどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013 作。Navigator)
- *CEDARS:Little Copper Still A
 (Cedars は紅一点の女性シンガーの Chantal Hill がヴォーカルの英国のルーツ・ロック・バンド。彼らのルーツ・ロックはかなり本醸造。Chantal のヴォーカルは古いブルース・シンガーやホピュー・シンガーの妖艶さを放ち、それでいて現代のフォーク・シンガー風でもあって、熱いスライド・ギターやバンジョーの演奏はストレートにロック化していて、熱い。ルーツの匂いがたっぶり。2013 作。Clubhouse)
- *JOE COCKER:Fire It Up ¥2690
 (CD+DVDセット。DVD は PAL 方式。久し振りに聴く Joe Cocker は、この 40 年あまり、結局南部ロックにとりつかれら音楽人生だった、ということ。同じ釜の飯を食った仲間達の多くが、音楽的にも、実際にも第一線から身を引いていった中で、Joe はしぶとく南部ロックを第一線で演じてきた。アルバム・タイトルが示すように、特に本作が「熱く」演じたアルバムなのかも知れないが、70 年代初めの Mad Dogs&Englishmen 時代となんら変わらぬ入魂の唄と南部フィーリング溢れるロックにすっかり骨抜きになる。8 曲目“You Don't Know What You're Doing To Me”は“You Are So Beautiful”を想起させるソウルフルな美しい曲。DVD は CD 収録曲の中から 6 曲のライブが挿れる。2012 作。ドイツ Sony)
- *ALASDAIR ROBERTS:Farewell Sorrow B

(Andy Roberts の息子でスコットランドのSSWのAlasdairの孤独感漂うやる気のないヴォーカルと伝承歌的夢物語の世界で遊ぶ独り言的唄達は何とも不思議な世界へと誘う。2003作。Rough Trade)

- *NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B
(Naomi はまるで英国のEmmylou Harris。今のEmmylouではなく、70年代の。Naomiの声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011作。Dusty Willow)
- *KEITH CHRISTMAS:Live At The Pump A
(齢を重ねたヴェテランSSWのK. Christmasのギター弾き語りライブ。全18曲。約40年の隔たりで聴くK. Christmasの唄はアメリカのヴェテランSSW達、例えばMichael MurpheyやJohn PrineのようなヴェテランSSWのギター弾き語りライブを聴く感触。2012作。BECN)
- *JAMES GRANT:Strange Flowers C
(Scott WalkerやJohn Martinを想わずソウルフルかつミステリアスなヴォーカルは静かに闇が迫るように圧倒的なGreatなSSWアルバム。w. Karen Matheson, Donald Shaw, James MacKintosh, etc. 2009作。Vertical)
- *DUNCAN McCRONE:Colourblind B
(70年代からスコットランドのフォーク・シーンで活動してきたヴェテランSSW、D. McCroneのソロ。D. McCroneの本作は、総じて穏やかだが、ストーリーテラー風フォーク・シンガー・スタイルで、内省的なテリソンが感じられる唄とリント・イスターン・スタイルのブリティッシュ・フォークの香りのする牧歌的で郷愁をそそる唄が混在し、どこか懐かしい気分させられる。w. Ray Laidlow, Steve Lawrence, Chris Stout, Finlay Macdonald, etc. 2012作。Circular)
- *EDDIE MARTIN:Folk & Blues a
(「アメリカ」で取り上げたい渾身のブルース・ハーブ {ブルース・ハーブの妙技も素晴らしい}を吹き、ギター&ホーン・ギターの弾き語りブルース・アルバム。伴りの妖精物語“Kind Lady Moon” {男が悪魔にさらわれる物語}さえ、Eddieの手にかかるとゴテゴテのブルースに変幻する。ここまでブルースを自分のものとし、操れるブルース・シンガーはそうはいない。J. J. CaleやEric Claptonのファンにお薦め。2010作。Blue Blood)
- *LAURA MARLING:A Creature I Don't Know B
(本作は昨年9月に発売された同名タイトルのアルバムに16トラック収録ライブCD “Live From Yorkminster” をセットにした2枚組限定盤。Lauraの音楽性はフォーク、カントリー、ロック、ジャズ等様々な音楽性が散りばめられ、多彩だが、弾き語りを基本にしていて、ソングライティングや感性の部分で、Joni Mitchellの影響が感じられ、加えてLeonard CohenやNeil Youngを想起させる部分もあつたりで中々魅力的。プロデュースはGlyn Johnsの息子のEthan Johns。2012作。Virgin)
- *ELEANOR McEVOY:Alone B
(アイルランドのSSWのE. McEvoyの9枚目の本作は、アコースティック・ギター、或いはピアノ、或いはエレキギター、或いはベースギターを一曲一曲持ち替え、弾き語りであつたもの。タイトル通りのEleanor独りぼっちの世界の唄ばかり。2011作。Moscodisc)
- *JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To C

- (欧米のSSWの中でも屈指のSSWのJohn Spillaneの唄が始まるや、いつもJohn Spillane一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011作。EMI)
- *CANDICE NIGHTS:Reflections A
(Ritchie Blackmoreの奥さんのCandiceの優麗な唄。すべての人が夢の中。2011作。Minstrel Hall Music)
- *FREDDIE WHITE:Close To You B
(一枚発見。1991年作。EMI)
- *EMMA TRICCA:Gypsies And Red Chairs a
(イタリア人女性シンガーによる夢想的ブリティッシュ・フォーク。Suffron Summerfield, Davey Graham 推薦。2001作。Fairylands)
- *MASTER OF CRAFTSMEN C
(一枚発見。Bert Jansch, Simon Nicol, Vikki Clayton, Dave Pegg, Dave Mattacks, Chris Leslie, G. Giltrap, etc. 99作。Terra Nova)
- *GREGSON & COLLISTER:Love Is A Strange Hotel ¥2718
(国内盤。1991作。キング)
- *REDLANDS PALOMINO COMPANY:Don't Fade A
(全国のカントリー・ロック・ファンに絶対のお薦め。紅一点のシンガー、Hannah Elton-Wallを擁する彼ら{もう一人のヴォーカルのAlex Elton-Wallとほぼ交互にリード・ヴォーカルを取り、ハーモニーする}のカントリー・ロックは、Kennedysくらい70年代米国西海岸カントリー・ロックの夢見心地な旨みをたっぷり持った胸キュンのカントリー・ロック。2011作。Clubhouse)
- *GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY B
:Yesterday I Saw The Earth Beautiful
(元Patrick StreetでSSWで名ギター奏者のGerry O' Beirneの本作はRosie Shiplayなる無名の女性フィドル奏者Rosieとのデュオ・アルバム。デリケートな感受性に富むG. O' Beirneの唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010作。Shipwhistle)
- *CAVIL:Mares' Tails B
(何とものどかな幸せ気分になれる唄たちだ。ヴォーカルの雰囲気が一見、Nick Drake風だが、Nickのような神経質的な面は皆無。ジャケットの写真ではないが、麦畑に心地よく吹く風のような唄がギターやピアノやグロックenspielなどの夢のような音色に包まれてほわほわと流れる。こんな至福な唄の世界は久しぶり。申し訳ないが、コメント書くのを止めてぼーっと聴いていたくなった。2010作。Folkwit)
- *CIARAN DORRIS:Home B
(C. Dorrisはベルファスト出身で現在スコットランドでケルト音楽ラジオの人気キャスターを務めるSSW。Ciaranの唄はとても人なつっこい。アイルランドとスコットランドの二つの故郷を想う気持ちが綴られたCiaranの唄は健やかで晴れやで、そして感傷的。アイルランドの叙情派SSWのCiaran Gossに似てるだろうか？w. Shona Mooney, Calum Stewart, Stuart Duncan, Gillian Duncan, Mary Kathleen Burke 他。2010作。Greentrax)
- *KATH READE:Passionate Nature B

(Kath Reade は Jez Lowe が主宰する Songwriter Cup の元保持者で、
ランカシャー地方では名の知れたヴァンデラ女性フォーク・シンガー。本作がデビュー
作。Kath の唄は土地に根ざしたフォーク。と言ってもその土地の伝統歌
をうたうのではなく、Kath 自身が土地の伝承や土地の人々の営み
を自分の言葉でうたったもの。音楽性はむしろ 60 年代～70 年代の
ブリティッシュ・フォーク/SSW っぽい。2010 作。Splid)

- *DEMOLITION SKY:Demolition Sky B
(Richard Durrant 主宰の Airport Club で 2001 年に出会い、デュオで活
動する Alistair Mackie と Mark Collyer の二人組のデビュー作。二人
ともがアコースティック・ギターを快く弾き、二人がハモる唄は清々しく美し
い。イングランドの美しい風景を描写した唄など往年の爽やかでミラクル
ムードのブリティッシュ・フォークをホフツさせもする。Produced by Richard
Durrant。2009 作。LongMan)
- *DAVID ROTHERAY:The Life Of Birds A
(Beautiful South の創設メンバーのソロ名義のアルバムで、曲目は David の
自作曲或いは David と本アルバムでヴォーカルを取るシンガーとの共作曲な
のだが、ヴォーカルを取るのはいずれもゲストのシンガー。そのシンガーは Eliza
Carthy {2 曲}, Bella Hardy {3 曲}, Jim Causley {3 曲}, Kathryn
Williams {1 曲}, Eleanor McEvoy {1 曲}, Alasdair Roberts {1 曲},
Julie Murphy {1 曲} 等。タイトルが示すように鳥の唄が中心だが、それ
だけでなく一曲一曲の唄がしっとりとして、心に残る唄ばかり。
2010 作。Proper)
- *AL STEWART WITH DAVE NACHMANOFF:Uncorked B
(A. Stewart が古くからの音楽仲間であるギター奏者の D. Nachmanoff と
2009 年に行った米国ツアーでのライブ。Al Stewart は今が最も旬かも。
全 13 曲。2010 作。Wallaby Trails)
- *MEIC STEVENS:Love Songs B
(ウェールズの Bob Dylan と言われた Meic が 18 歳だった 1959 年から 2009
年の間に作られた英語の「ラブ・ソング」集。全 13 曲。大半が未発表曲。
いやはや初心回帰と言うか、Meic の唄は唄に誠実で優しい。本作は
その昔、Bob Dylan に紹介してくれたという Fiona Fleming という
女性に捧げられてる。2010 作。Sain)
- *MICHAEL WESTON KING C
: I Didn't Raise My Boy To Be A Soldier
(Bob Dylan 作の "I Pity The Poor Immigrant" と "Simple Songs Of
Freedom" や Phil Ochs 作の "Cops Of The World" と "Is There
Anybody Here?" や Paul Simon 作の "Homeward Bound" 等全 12 曲。
2010 作。Valve)
- *LIZZIE NUNNERY:Company Of Ghosts A
(2008 年 BBC ラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファースト
アルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、
何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる 2010 作。Fellside)
- *JENNA:Brother C
(21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか
見聞きし、体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が、ある
時はギターの強いビートの利いた曲調で、ある時はピアノをフィーチャーした

気持ちよく流れるような曲調で、ある時はタイトなフォーク・ロック調で自在に空を舞うようにうたう。若き、魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。

Hands On Music)

- *ELBOW JANE: 3 Side Island B
(リパブールの風景や人の心は変わったが、希望と栄光は生きていとうたう男性 5 人組。5 人の内 3 人がヴォーカルを取るが、それぞれのヴォーカルが思索的で、アコースティックな音楽は穏やかで滋味溢れるもの。ヴォーカルとハーモニーから生まれる柔らかな緊張感は見事で、むしろ SSW アルバムとして質の高さを見せている。ブリティッシュ・フォークとして音楽の質が高い。2009 作。Fellside)
- *LUKA BLOOM: Riverside ¥1880
(w. Liam O' Maonlai, Eileen Ivers, Conor Byrne, etc. 90 作。Reprise)
- *LUKA BLOOM: The Barry Moore Years B
(Barry Moore が Luka Bloom と名前変える前のフィンガー・ピッキング・ギターの美しい弾き語り時代に発表した "Treaty Stone" {78 作}, "In Groningen" {80 年}, "No Heroes" {82 年} の初期 3 枚のアルバムからの 15 曲入編集 CD。70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香薫る Barry Moore 時代の CD だ。2001 作。Luka Bloom)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B
(2010 年 BBC の "Horizon Award" 入賞の Katriona {ヴォーカル、フィドル} & Jamie {ヴォーカル、ギター} の若き男女デュオ。作詞作曲は Jamie が主でヴォーカルも Jamie が主にリードを取り、Katriona はハーモニー役。Jamie の理的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *MIKE SILVER: How Many Rivers A
(英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Coppin そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊かな唄は最高潮。w. J. Coppin, R. McTell, Jo Partridge, Martyn Wyndham-Read, Phil Beer, Julie Silver, Roger Nichols, Mick Dolan, etc. 2008 作。Faymus)
- *JACK McNEILL & CHARLIE HEYS
: Light Up All The Beacons B
(Jack & Charlie のフレッシュなデュオ作。2008 作。Fellside)
- *CRUACHAN: Tuatha Na Gael C
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの 95 年作に 97 年録音の 3 曲のボーナス曲を加えた再発盤。全 12 曲入。彼らの男女のヴォーカルを含め、夢想性と魔性を帯びたアイルランドのフォーク・ロックの醍醐味は物凄い。リアン・パイプスやホイッスルや小鳥の囀り等が彼らのエネルギッシュなフォーク・ロックに +α の魅力を注入している。ジャケットもブックレットも何から何まで、ケルティックで神秘的。95/97 作。オランダ Karmageddon Media)
- *GINA LE FAUX: In My Life C
(ほぼ Martin Simpson {トブロー、レキスター} と Andy Cutting {メロディオン} が全面バックアップする良質の女性 SSW アルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性 SSW のような声質とヴォーカルスタイルで、M. Simpson の味わいのあるトブローの伴奏で、心象風景や心模様をゆったりと唄にしたという感じで、一曲一曲が唄のスケッチのよ

- う。2009 作。Le Faux Music)
- *SAM LEWIS:Everything You Are G
 (Samはある種 J. J. Gale のような、何とも夢うつつな魅力的な SSW。
 ロック・バンドのギタリストで Neil Young のファンという Sam 自身が奏でるギ
 ターやラップ・スティール・ギターは感覚的で、緩くも星の輝きのような音色
 で目覚めの悪い唄にびったしはまっている。このうとうとした感
 触は凄い魅力。一度聴くと病みつき。Bert Jansch とツアーをしたりも
 しているようだが、どんなコンサートなんだろう?2007 作。Rusk)
- *THE SAW DOCTORS:Live At The Melody Tent B
 (アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は
 2008 年の夏。Runrigクラスの魂揺さぶる
 フォーク・ロックだ。凄い!2008 作。Shamtown)
- *THE SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown)B
 *THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown) B
 *ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT
 :The Rampin' Cat a
 (イギリスのラグタイムやスキッフ、ジブシー音楽、古いジャズやホピユー音楽そし
 てセピア色の愉快的な唄のコミック・バンド Roaring Jelly [Derek Pearce,
 Clive Harvey, Mick Hennessey] の76年のデビュー作とパブ・ミュージシャン
 ンでコンサート奏者の Michael Hebbert の76年のデビュー作の"2 on 1"
 全22トラック。76/2008 作。Free Reed)
- *DAVID LEWIS:Ghost Rhymes A
 (Andwella の D. Lewis ではないもう一人の素晴らしい SSW の D. Lewis
 の2007 作。本作も John Wesley Harding が全曲でまるでデュオのよう
 に付合っている。この David の英国人的感性が光る弱々しい感触が
 何とも言えず魅力。D. Lewis の陰影に富む唄そして細やかな音作り
 は本当に魅力的。男性 SSW だが SSWファンは皆胸キュン保証。2007 作。WOW)
- *JIMME O' NEILL:Real C
 (スコティッシュ・バンド "Silencers" のリーダーでヴォーカルの J. O' Neill のギター弾
 き語りを中心にしたファースト・アルバム。2008 作。Keltia Musique)
- *CHRIS WHILE:Look At Me Now A
 (ヴェテラン女性 SSW の Chris While の1994年のアルバム。1994 作。
 Fat Cat)
- *CHRIS WHILE:Rosella Red A
 (ヴェテラン女性 SSW の Chris While の2007年のアルバム。w. Kellie
 While, Gerry Conway, Joe Broughton, Neil Fairclough, etc.
 2007 作。Fat Cat)
- *MARTYN JOSEPH:Full Colour Black And White A
 (5 枚目。帰郷の喜びを全身で唄った軽快な1曲目 "Going Home" の
 門をくぐると、まるで自問自答するような Martyn の詩情溢れる唄
 の世界。録音は Michael Weston King の "God Shaped Hole" と同じ
 Martyn の家の屋根裏部屋スタジオ。SSWアルバムの原点。96 作。Grapevine)
- *MARTYN JOSEPH:Far From Home A
 (闇も中から響いてくるようなアコースティック・ギターのクリアな響きと共に
 Martyn の純な唄達が心に染みわたる絶句のアルバム。99 作。Pipe)
- *STEVE ASHLEY:Time And Tide C

- (S. Ashley の本作は英国的陰影に富む 70 年代ブリティッシュ・フォーク回帰の名品。w. Chris Leslie, Simon Nicol, Dave Pegg, Robin Williamson, Paul Manning, etc. 2007 作。Topic)
- *XAVIER BARO:Flors De Joglaria ¥1500
 (スペインのフォーク・シンガー。カタルニャのフォーク・シンガーの X. Baro の本作は 70 年代ブリティッシュ・フォーク・スタイルのフォーク/フォーク・ロック。Xavier は夢の旅人のイメージでのトルバドール的でエレキ&アコースティック・ギター、ベース、オルガン、ピアノによる甘味ある優美なフォーク/フォーク・ロック。教会風オルガンや甘みあるギター等が 70 年代風ブリティッシュ・フォークの夢見心地さを引き立たせ、Xavier の唄は仮想の夢のサントの中でゆったり舞う。スペインのシンガーによる耽美的ブリティッシュ・フォーク。2006 作。Quadrant)
- *INCREDIBLE STRING BAND:Nebulous Nearnesses B
 (Mike Heron, Clive Palmer, Lawson Dando, Fluff, Gavin Dickie, Steini Gudmundsson というラインナップの 2005 年版 ISB。余計な贅肉が落ちて牧歌的で清々しくて微笑ましいブリティッシュ・フォーク。どこことなく英国版 Woodstock Mountain Revue 的音楽。スペインQuadrant)
- *BERT JANSCH:Nicola A
 (2 曲ボーナス付。詳細解説付。67/2002 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Birthday Blues A
 (2 曲ボーナス付。詳細解説付。69/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:The Ornament Tree (90 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:From The Outside A
 (紛失曲“I Sure Wanna Know”を収録し、新たに CD 再発。93/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Live At The 12 Bar (96 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:Crimson Moon (2000 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:The River Sessions B
 (74 年 11 月グラスゴーの City Hall でのライブ。74/2004 作。River)
- *BERT JANSCH:Dazzling Stranger A
 (アンソロジー-20 曲入編集 2 枚組。2000 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Black Swan (2006 作。Drag City) A
- *JOAN ARMATRADING:Into The Blues B
 (全て自作曲だが、ブルース色濃厚な Joan の本作はブルスマンのブルース魂が乗り移ったスピリットの高いブルース。活きの良いブルースが快感。2007 作。Hypertension)
- *ANDY WHITTLE:Old Fashioned Dream B
 (ブリティッシュ・フォークの優等生! と言いたくなるノッティンガム出身の若干 24 歳の SSW の瑞々しいデビュー作。理想の SSW アルバム。2005 作。Folkwit)
- *SCOTT MATTHEWS:Passing Stranger B
 (驚きの個性的な SSW だ。ピュアさと泥臭さとを併せ持ったというか、全体として Nick Drake 的ムードを漂わせていて、自己陶醉型なのだが、スライド・ギター等ギターの名手でもあって、泥臭いブルースの世界も覗かせていて奥が深い。2006 作。San Remo)
- *PLAINSONG:Dark Side Of The Room (92 作。トイライン) ¥1980
- *ROGER MORRIS:Light Up The Road ¥900
- *ROGER MORRIS:Beholder ¥900

(Roger Morris“First Album”のあの R. Morris の 2001 年作の 2 枚目
と 2004 年作の 3 枚目)

- *JUDY DINNING: Fine Times D
(ノサンバ・ラント出身の Judy が故郷を唄ったもの。2003 作。MWM)
- *LEE COLLINSON: Breathless a
(ブリティッシュ・フォーク・ギタリストとしてかつ英国的センスが光る味のあるシンガーとして知る人ぞ知る Lee の 6 年振りアルバム。Martin Simpson の繊細&鮮烈ギターに独自のスタイルを加味したアコースティック・ギターの輝きとコクは、流石。釘づけ…。2000 作。Chama)
- *GRAHAM LYLE: Something Beautiful Remains A
(ブリティッシュ・フォークの数々の名作を生み出した Gallagher&Lyle の Graham Lyle のソロ。ほろ酔い気分。2003 作。トイ Hypertension)
- *JOHN LEO CARTER&CO.: Candyloss Girl C
(アイルランドの SSW だが、感性鋭いアコースティック・ギターの瞑想的響きと John の夢想的ヴォーカルは Nick Drake を想起させる。w. John Spillane, Mairead Kelly {ハープ、ヴォーカル}, Edel Sullivan {フイドル、ヴォーカル}, Thaddeus Buckley {ブラス、キー}, etc. 2003 作。Circle)
- *JASON O' DRISCOLL: Dharma C
(Jason はアイルランドのフォークの SSW のようだが、たわいもない唄を素直に心優しくメロディアスに唄う。その素直さと浮遊感ある緩やかな唄が心地よい。2003 作。Jason O' Driscoll)
- *MAGGIE HOLLAND: Circle Of Light B
(フォーク・シンガーの Maggie の唄ときっちり向き合った存在感あるフォーク・アルバム。全 15 曲。2003 作。Irregular)
- *THE VARAFLAMES: Throwing Shapes B
(Nab Noakes, Rod Clements, Fraser Speirs, Pick Withers にバックアップ・ヴォーカルで Gill Bowman&Karina Polwart が加わった Varaflames のおやじ歓ぶ懐古趣味ロック。2000 作。Neon)
- *RAB NOAKES: Rarities + Demos Vol.1 C
(マルチメディア機能付 CD。70 年作のデビュー作前の 69 年に家庭用レコーダーで録音していたテープからの全 15 曲。1 曲 1 曲が磨かれる前の原石の輝き。CD-ROM は Rab の長いおしゃべり弾き語りビデオにフォトギャラリーほか。2002 作。Neon)
- *LINDISFARNE: Promenade B
(何とも温かい心地になれる温かで懐かしい Lindisfarne の New。2002 作。Park)
- *LINDISFARNE: The Croppedy Concert A
(94 年の Croppedy のライヴ。97 作。Mooncrest)
- *LINDISFARNE: Buried Treasures Vol.3 A
(未発表曲集第 3 弾。17 曲 + α。2000 作。Siren)
- *ROD CLEMENTS: One Track Mind B
(3 曲ボーナス付再発。Lindisfarne の R. Clements が自身のルーツの音楽フォークやブルースへの回帰そして回想したもの。w. Ray Laidow, Steve Cunningham。94/2001 作。Siren)
- *SONNY CONDELL: Backwater Awhile A
(触ると壊れそうな優しい唄と伴奏と唄の世界。S. Condeall は正に

夢織り人。自分の居心地のいい唄世界を創造し、オリジナリティな夢音楽を生み出している。2001 作。Backwater)

- *KEVIN DOHERTY:Strange Weather A
(ウッドストック録音。w. Gerry O' Connor, Levon Helm, Amy Helm, Rick Danko, Aaron Hurwitz, Mike J. Dunn, Randy Ciarlante, etc. 99 作。)
- *FAYE ROCHELLE:Reflections B
(Faye 嬢の唄は一種独特。不思議な浮遊感がある。裏返るヴォーカルによつぱり東方風味のエキゾチックなサウンド...。女性的な感性がきらめく唄。w. Nigel Eaton, Kuljit Bhamra, Steafan Hannigan, etc. 2000 作。Offspring)
- *ANDREW WHITE:Pray For Rain B
(スコットランド出身の SSW で屈指のブリティッシュ・フォーク・ギタリストの心飛ぶデビュー作。2001 作。Vertical)

[DVD/FAIRPORT]

※国内製 DVD フォーマットで再生可能

- *FAIRPORT CONVENTION:Cropley Festival 2001 ¥3800
(2001 年の Cropley でのライブ。約 90 分。2002 作。Classic Rock Legends)
- *SANDY DENNY:Under Review ¥3800
(外装パッケージに傷みがありますが、DVD 本体は新品同様。115 分。2006 作。Sexy Intellectual)

[DVD/FAIRPORT] PAL

※PAL 方式再生可能 DVD フォーマット/パソコンでのみ再生可能

- *FAIRPORT CONVENTION:35th Anniversary Concert ¥3800
(全 19 曲。153 分。2003 年。Secret Films 盤)

[DVD&CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD フォーマットで再生可能

- *RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx(DVD) B
- *RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx(CD) A
(2001 年 7 月、Austin City Limits でのライブ)。メンバーは R. Thompson と Danny Thompson {ベース} と Michael Jerome {ドラムス}。1 曲目から 8 曲目までアコースティック・ギターで、9 曲目から 14 曲目までエレキギターそして 15 曲目がアコースティック・ギター 16 曲目がエレキギター {最後の 16 曲目は DVD のみに収録} の演奏なのだが、R. T. は真剣なギター・プレイとヴォーカルを披露し、終始釘付け。2005 作。New West)

[CD(DVD)/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

- *RICHARD THOMPSON BAND:Live At Rocpalast ¥3290
(三枚組 CD + 二枚組 DVD {国内製プレイヤーで再生可能} の五枚組セット。R. Thompson Band {R. T., Simon Nicol, Dave Pegg, Dave Mattacks, Pete Zorn, Pete Thomas, Alan Dunn, Gary Conway, Rory Mafarlane} が "Hand Of Kindness" のプロモーションで 1983 年にドイツのハンブルグと 1984 年にフランスのカンヌで行ったライ

ヴ”。当然“Hand Of Kindness”収録曲を中心にした曲目で、R. T. 流
フォークロックは圧巻。ブレザーを着た Simon Nicol の若いこと！
DVD は CD のビデオ版で、収録曲数は 34 曲。2017 作。MIG-Music)

*ASHLEY HUTCHINGS & FRIENDS: The Beginnings Of

Fairport Convention (Official Bootleg) a
(簡易紙ジャケット CD-R 仕様の限定盤。Ashley Hutchings と彼のバ
ンド {Becky Mills, Ani McNeice, Gerry McNeice, Guy Fletcher}
が 2017 年 5 月にフェスで行ったライブを収録したもので、Ashley
が Fairport 結成時の数々の思い出話 {Fairport にまつわる話だけ
ではなく、当時のフォークやロックのことや R. Thompson や Joni
Mitchell や Jimi Hendrix など当時出会ったミュージシャンの話
など} などをする中で、思い出のナンバーを演唱したもの。全体と
しては主にリード・ヴォーカルを取る 60~70 年代のフォーク・シ
ンガー然とした Becky Mills の爽やかフォークの雰囲気 {Crazy
Man Michael”は Ashley もベタ誉めの素晴らしいシンギング!} だ
が、最後の二曲では Ashley が前面に立ち、Albion Band を彷彿させ
る気迫のこもった Folk Rock で締めて幕。2017 作。Big Purple)

*RICHARD THOMPSON BAND: Ducknapped ¥2790

(R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Pete Zorn,
Earl Harvin, Danny Thompson, Rory McFarlanee による R. T. Band の
2003 年 3 月の英国ツアー時と米国カリフォルニアでのライブ。ゲスト: Christine
Collister & Judith Owen。全 14 曲。2002 作。Beeswing)

*DAVID HUGHES & CHRIS LESLIE: Acoustic Christmas ¥1400

(英国の SSW の D. Huges と Fairport のシンガーの C. Leslie の夢の共
演盤。ギターとマンドリンの伴奏による耳と心に新鮮なクリスマ
ス・ソング集。全 6 曲の 24 分。簡易紙ジャケット仕様。1998 作。Folk
Corporation)

*DAVE SWARBRICK: It Suits Me Well

- The Transatlantic Recordings: 1976-1983 ¥2790

(“Swarbrick” {1976 年}, “Swarbrick 2” {1977 年}, “Smiddyburn”
{1981 年}, “Flittin” {1983 年} の “2 in 4” の二枚組 CD。全 46 トラ
ック。2016 作。Cherry Tree)

*FAIRPORT WITH SWARB: Scrum-Half Bricking ¥2790

(副題 “Fairport With Swarb At Derby”。2003 年、Derby のアセンブ
リー・ルームに Dave Swarbrick を招いて、収録した D. Swarbrick 救
援 1000 枚限定超レアなチャリティー CD。2003 作。Front Row)

*DUNCAN WOOD & GUESTS: Swarbricks B

(本作のアイデアは Cathal McConnell と Duncan Wood が Swarb と
Edinburgh Folk Club で共演したことに始まる。全曲 Swarb 作曲の
曲で全 17 トラック収録。マンドリン、マンドーラ、フィドル、ヴァイオリン、バウロン等を
演奏する Duncan は、Swarb の曲は完成されていて、簡単には編曲不
可能と判断し、じゃあセッションしてで作ろう！ということにな
って、Cathal McConnell {フルート、ホイッスル}、Martin McDonald {ギター、ホ
ーン}、Gavin Sutherland {ギター}、Maureen Hunter {ハープ} の仲間と
フォーク・クラブでセッションするように作ってしまったのが本
作。これが功を奏して、まるで Boys Of The Lough のようなスコテ

- イッシュな Swarbrick Music が完成。2013 作。Beaechwood)
- *ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK
:The Cold Grey Light Of Dawn(1998 作。Musikfolk) C
- *ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY:Nightbirds A
(Dando Shaft、Whippersnapper の K. Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。Kevin は Rosie という花を得て、Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ・フォークを開花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていなくなる。2014 年制作の 2016 リリース作。Haystack)
- *ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO
:Twangin' 'n' A-traddin' Revisited A
(1994 年作の Big Beat Combo=Ashley Hutchings, Richard Thompson, Simon Nicol, Maartin Allcock, Simon Care, Phil Beer 他=の青春時代のポップ&ロック・アルバム"Twangin' 'n' A-traddin'" に三曲{内二曲は 60 年代風ガールズ・トリオの"Velveteens"がヴォーカルを加えた"Revisited"版。全 15トラック。三つ折り紙ジャケット仕様。十代の頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)
- *ALBION CHRISTMAS BAND:One For The Road B
(2013 年、Albion Christmas Band{Ashley Hutchings, Simon Nicol, Kellie While, Simon Care}が結成 15 周年を記念して行ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドンの Kings Place でのライブを収録した新作。何と 19トラック! 最近 Ashley Hutchings がらみのまともな新録アルバムのリリースがないことから、「Ashley は引退?」と半ば心配していたが、達者のヴォーカルとバンド・リーダーとしての雰囲気あるしゃべりを聴き、一安心。本作は一に Kellie While の美しいシンキング、二に Simon Nicol の穏やかなシンキングが良い。クリスマスの Happy な曲以上に清く美しい曲が多い英国的に美しいクリスマス音楽だ。2014 作。Rooksmere)
- *ALBION DANCE BAND:I Got New Shoes Revisited A
(Albion Dance Band{Ashley Hutchings, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster, John Shepherd そしてゲストの Polly Bolton}の 1988 年作が CD 再発。ボーナス・トラック3トラック{2 曲がライブで 1 曲がスタジオ録音}付の全 13トラック。この時代の Ashley 関連のアルバムはどれも勢いがある。久しぶりに本作を聴いたが、スツと重くて跳ねるドラムス、ノイズなエレキギター、中世風味等など渾然一体としたる英国風フォーク・ロックはハワフルでかつジャンプ力がある。皆さん、乗ってますねえ。1988/2014 作。Talking Elephant)
- *SIMON NICOL:Consonant Please Carol A
(Simon Nicol の 1992 年作のセカンド・ソロ・アルバム。"Rosemary's Sister"の作者 Huw Williams 作の曲を 4 曲を含む本作は、英国的叙情はさらに深まっていて、しんみりと心に響く。名作。w. Martin Allcock, Gerry Conway, Danny Thompson, Maggie Reilly, Beryl Marriott, Grant Bowden, Sherryl&Sheila Parker, Pete Zorn。1992/2014 作。Talking Elephant)
- *CHRISTMAS IN ALBION "A Festive Compilation" A

(Albion Band, Albion Christmas Band, St Agnes Fountain, Phil Beer, Fairport Convention, Chris & John Leslie, Amazing Blondel, Andy Steele の「フォーク・ロック」なクリスマス・ソング集。全 20トラック。2012 作。Talking Elephant)

- *FAIRPORT CONVENTION: And The Band Played On B
(2003 年 2 月 22 日の Marlowe Theatre のコンサート・ライヴ音源からの 20トラック [26 曲] 収録の 2 枚組。メンバーは、S. Nicol, D. Pegg, Rick Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway, Andy Guttridge。2012 作。Secret)
- *SHIRLEY&DOLLY COLLINS: Snapshots A
(1970 年代後半のライヴと 60 年代録音のデモ音源数曲の計 22 曲入。Shirley のシンギングと Dolly の牧歌的なオルガンの音色はイングランドのトラッドの牧歌的で故郷のような温もりを保持。2006 作。Fledg'ling)
- *FAIRPORT CONVENTION: Before The Moon D
(1974 年の Ebbets Field でのライヴ。二枚組。20トラック。2002 作。Pilot)
- *ANNE DE BRETAGNE C
(ハード・カバー装丁の 2 枚組。副題“Le Rock Opera d' Alan Simon”。全曲 Alan Simon 作詩作曲の中世ブルターニュの歴史絵巻物語。参加ミュージシャンが豪華。Cecile Corbel, Fairport Convention, Chris Leslie, Tri Yann, Didier Squiban, Pat O' May 等等。全 30 曲。色鮮やかに描かれた P48 の歴史絵巻ブックレット付。2009 作。Babaika)
- *THE GATHERING BRITANNIA: The Bridge Between a
(Gathering Britannia なるバンドのラインナップは何と、Ray Jackson, Jerry Donahue, Doug Morter, Rich Kemp, Clive Bunker、そして Jerry Donahue の娘でシンガーの Kristina Donahue という Fairport, Fotheringay, Albion Band, Steeleye Span, Jethro Tull 出身者の夢のバンド。おじさん達の中で、Kristina の優美なヴォーカルが花を添えている。Produced by Jerry Donahue, Ray Jackson and Doug Morter。2011 作。Itsaboutmusic.com)
- *FAIRPORT CONVENTION: More Things We Did On Our Holiday B
(2 枚組セット。ディスク1 は 1986 年の Cropredy Festival のライヴで全 12 曲 {内 4 曲は Iain Matthews がリード・ヴォーカル。その I. Matthews に S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Jerry Donahue, Cathy Lesurf, Clive Gregson, Christine Collister}。ディスク2 は 1987 年の Cropredy Festival のライヴで全 13 曲 {S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Ralph McTell, June Tabor, D. Swarbrick, Ian Anderson, Cathy Lesurf}。Produced by Dave Pegg。Secret)
- *ALBION BAND
: Another Christmas Present – Live In Concert A
(Cathy Lesurf, Ashley Hutchings, John Tams, Phil Beer, Martin Bell, Trevor Foster のラインナップで 1986 年に行ったクリスマス・ツアーの未発表ライヴ盤。全 19トラック。2010 作。Talking Elephant)
- *ALBION BAND: Vintage Vol. 2 A
(Albion Band の 1972 年～80 年間の未発表音源を集めた編集 CD。メンバーは Ashley Hutchings, Shirley Collins, Martin Carty, Dave Mattacks, Simon Nicol, Sue Harris, John Kirkpatrick, John Tams,

- Graham Taylor 等無敵のメンバー。70年代 Albion/Albion Dance Band
の集大成的音楽。全15トラック。2010作。Talking Elephant)
- *ASHLEY HUTCHINGS&RAINBOW CHASERS:A Brilliant Light A
(Ashley&Rainbow Chasersの2004年12月のライブ。16曲入の2枚組。そ
れぞれが魅力的なヴォーカルを披露し、ギター、フィドル、ヴァイオリン等のアコースティ
ックな音色が美しい英国的叙情と気品溢れる唄と音楽が堪能できる
心洗われるライブ。2005作。Secret)
- *ASHLEY HUTCHINGS AND KEN NICOL:Copper, Russet And Gold C
(Ashleyの、AlbionもRainbow Chasersも離れての本作は長年の音楽
仲間でギター名手でシンガーのK.Nicolとの共演盤。K.Nicolはブリティッシュ・
フォーク然とした美しく巧みなアコースティック・ギターで、かつ時に格調高いエレ
キギターをかき鳴らし、英国情緒を豊かに演出し、AshleyとK.Nicol
が毅然としたヴォーカルでAshley&Ken流英国情緒を堪能させる。ゲスト
で美声を震わすAbbie LatheとBecky Millsが良き英国情緒の芳香
を添えている。2010作。Park)
- *ALBION BAND:Captured B
(1990&91年のAlbion Band[A. Hutchings, Julie Matthews, Phil
Beer, Simon Care, Trevor Foster]と1992年のAlbion Band[S. Care
とT. Fosterが抜け、ギターのKeith Hinchliffeが加入]の音源からの
編集盤で全13トラック。2009作。Talking Elephant)
- *ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE
:My Land Is Your Land C
(イングランド側はAshley&Friendsとイタリア側はErnesto De Pascale&
Friendsの共演アルバム。Ashley側は、Rainbow Chasersのヴォーカルの
Ruth Angell&Jo Hamiltonの二人にChris Leslie, Ken Nicol,
PJ Wright, Lester Simpson, Marc Hutchinson等強力ラインナップで、イ
ングランド情緒を湛えた潔いフォーク・ロック。2008作。Esoteric)
- *KEITH DEWHURST & THE ALBION BAND
:Lark Rise To Candleford B
(Albion Bandの1980年作。80/2008作。Talking Elephant)
- *SWEEPS "A Joyful Celebration Of The Morris" B
(Albion Dance Band, Morris On Band, Grandson And Great
Grandson Of Morris On, Chris Leslie, Tickled Pink, Albion
Band, Cobbled Togetherの音源からの生え抜きもモリス曲が全14トラッ
ク。BGMで流してるだけでモリス祭り気分。2008作。Talking Elephant)
- *ALBION MORRIS:Still Dancing After All These Years B
(Albion MorrisはAshley Hutchingsのモリス・ダンス曲のロッシェのアプローチに
影響を受けて1972年に結成されたダンサー付グループ。本作は2002年の
30周年記念にどこぞの屋根裏部屋で録音されたもの。メンバーは
Shirley Collins[ここではナレーション役], Graeme Taylor, Michael
Gregory, Philip Picket, Tom Leary, John Watcham, Ian Culter,
Jon Davie等モリス界のツモノを含むメンバー。2008作。Talking Elephant)
- *DAVE PEGG&PJ WRIGHT:Galileo's Apology a
(FairportのD.PeggとLittle Johnny England, Dylan ProjectのPJ
とのデュオアルバムはヤジ趣味の渋く気概があり、それでいて風通し
の良い爽やかなSSWタイプ音楽。2007作。Matty Grooves)

- *THE WORKING PARTY:Live At The Mill ¥1000
 (Working PartyはChris Leslie,Troy Donockley,Simon Mayor,Chris Parkinson,Martin Allcockによるスーパー“即席バンド”。“The Kid on the Mountain”,“The Lark in the Morning”,“Sigh Beag Sigh Mor”,“The Mason Apron”,“The Star of County Down”など名曲ずらり。2006作。TWPPCL)
- *SANDY DENNY:Where The Time Goes ¥2190
 (1967年収録のStrawbsとの同曲のリジナル・ヴァージョンをフィーチャーした18曲。本作自体は1967年Sagaというレーベルから発売されたSandyの最初のスタジオ録音音源からその時のアウトテイク5曲を含むもの。67/2005作。Sanctuary)
- *SANDY DENNY:The Original Sandy Denny ¥2190
 (“North Star...”の前の67年作。Trojan/Sanctuary)
- *SANDY DENNY:Sandy a
 (72年作“Sandy”に“Pass Of Arms”からの2曲を含むボーナス曲5曲を加えたリマスター盤。72/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Like An Old Fashioned Waltz a
 (73年作“Like An Old Fashioned Waltz”に未発表音源から4曲のボーナス曲を加えたリマスター盤。73/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Rendezvous a
 (77年作“Rendezvous”にプロモーション・シングルB面を含むボーナス曲5曲を加えたリマスター盤。77/2005作。Island)
- *JOHN&CHRIS LESLIE:Ship Of Time D
 (John&Chris Leslie兄弟の76年製作のデュオ・アルバム。John&Chrisがイングラント等のダンス曲と民謡を若い頃から愛していたのが牧歌的なトラッドの演唱からほんわかと伝わってくる。青春の日のトラッド。締め括りは“Adieu Sweet Lovely Nancy”。76作。Kissing Spell)
- *FAIRPORT CONVENTION:Off The Desk D
 (2枚組。Ric Sanders編集の2004年~2005年のライヴ音源から全22曲。2006作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Across The Centuries ¥1000
 (2枚組20トラック入編集盤。2000年のオランダでのライヴ録音“Now Be Thankful”に“The Airing Cupboard Tapes 71-74”から5トラック、“Who Knows”から5トラック、“Acoustically Down Under”から4トラック、“The Wood&The Wire”から1トラックそして“Festival Cropredy 2002”から4トラック。2008作。Smith&Co)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :A Lasting Spirit The Collection ¥3280
 (Fairportの3枚組。ディスク1は希少曲を含む初期の音源と97年のコロレターのライヴから初期のレパートリーを収録で18曲。ディスク2はスタジオ録音からの15曲。ディスク3は主に97年のコロレターのライヴから14曲。ライヴのラインナップはR. Thompson, D. Mattacks, Vikki Clayton, Jerry Donahue, D. Swarbrick, Rick Sanders, Chris Leslie, Dave Mattacks, Bruce Rowland, D. Pegg, S. Nicolと思われる。2005作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Fairport Companion C

(Fairport 関係音楽家の編集 CD。36トラック収録の2枚組。人脈図付。
 Ian Campbell Folk Group, Ethnic Shuffle Orchestra, The Uglys,
 Sandy Denny, The Pembroke Unique Ensemble, Al Jones, , Trader
 Horne, Steeleye Span, Stefan Grossman, Marc Ellington, Shelagh
 McDonald, Shirley Collins&The Albion Band, Spiryogyra, Lal&
 Mike Waterson, Albion Country Band, Ian Matthews, Etchingham
 Steam Band, Harvey Andrews&Graham Cooper, Albion Dance Band,
 Royston&Heather Wood, The Albion Band, Dave Swarbrick, Ashley
 Hutchings&Friends。2006 作。Castle)

- *FAIRPORT CONVENTION:The Battle C
 (ドイツで The Battle というタイトルで発売された“The Five Season”と
 “Red&Gold”の特殊紙ジャケット2枚組 CD。2005 作。ドイツMembran Music)
- *FAIRPORT CONVENTION:Fairport Convention A
 (4曲のボーナス付デジタル・リマスター。68/2003 作。Polydor)
- *FAIRPORT CONVENTION:What We Did In Our Holiday A
 (3曲のボーナス付デジタル・リマスター。69/2003 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :Heyday “The BBC Sessions 1968—69 A
 (8曲のボーナス付デジタル・リマスター。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:“Babbacombe” Lee A
 (2曲のボーナス[BBC録音で内1曲は J. Donahue、残り1曲は S. Denny 参
 加]付デジタル・リマスター。71/2004 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Convention C
 (5曲のボーナス付デジタル・リマスター。74/2005 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon C
 (2枚組。74年のデーンバーでのライブでメンバーは Sandy Denny, Trevor
 Lucas, D. Swarbrick, D. Mattacks, D. Pegg, Jerry Donahue。
 全20曲。P22のブックレット付。2002 作。Pilot)
- *FAIRPORT CONVENTION:Rising For The Moon C
 (4曲のボーナス付デジタル・リマスター。75/2005 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:House Full A
 (2曲のボーナス付デジタル・リマスター。86/2001 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Gladys' Leap A
 (3曲のボーナス付リマスター。ボーナスは82年のCropredyのライブで、Trevor
 Lucas, D. Swarbrick, D. Pegg, J. Donahue, D. Mattacks, S. Nicol の最
 強の布陣。T. Lucas がヴォーカルの2曲の何と強力なこと。Fairport7ア
 ン感涙! Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :What We Did In Our Holiday(69 作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Unhalfbricking(69 作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Full House(70 作。Hunnibal) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Angel Delight(71 作。Island) ¥1000
- *FAIRPORT CONVENTION
 :The History Of Fairport Convention ¥1580
 (フェアポート初期のベスト盤。全18曲。フェアポートの人脈地図付。72 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Nine(73 作。Island) ¥1000

- *FAIRPORT CONVENTION:In Real Time ¥1000
(87年のCropledyでのライヴ。87作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Red&Gold ¥1580
(88録音の“Red&Gold”に94年のCropledy Fesでの“Close To The Wind”を加えた再発CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Five Seasons ¥1580
(90録音の“The Five Seasons”に94年のCropledy Fesでの“Caught A Whisper”を加えた再発CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows Where The Time Goes? ¥1000
(S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, R. SandersにC. Leslieからフェアポートの97作。ゲスト:R. Thompson。97作。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:Jewell In The Crown a
(95作。Green Linnet)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Wood&The Fire a
(S. Nicol, C. Leslie, D. Pegg, R. Sanders, G. Conwayから成る衰え知らずのFairportのNew。99作。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Cropledy Box D
(Cropledyの30周年ライヴ。3枚組。98/2003作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:XXXV a
(2001年収録のFairport30周年アルバムに2002年の30周年記念ツアーのライヴ音源からSimon Nicolがリト・ヴォーカルの“The Widow Of Westmorland’s Daughter”とChris Leslieがリト・ヴォーカルの“Rosie”の2曲を加えて発売。全16曲。2001/2006作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:25th Anniversary Concert B
(Fairport結成25周年記念コンサート{1992年のCropledy Festival}の2枚組ライヴ盤。ゲスト:Robert Plant, Richard Thompson, Chris Leslie, Julianne Regan, Ralph McTell, Dave Swarbrick, Jerry Donahue, Ashley Hutchings, Vikki Clayton, Bruce Rowland, Danny Thompson, Geoff Hughes。92/2007作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:Old・New・Borrowed・Blue ¥1000
(WoodwormとGreen Linnetから発売され長い間廃盤だった1995年アコースティック・フェアポートの“Banbury Mill Theatre”でのライヴ盤が再発。ラストの“Matty Groves/Dirty Linen”のみスタジオ録音。S. Nicol, D. Pegg, M. Allcock, R. Sanders。95/2007作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking D
(D. Swarbrick 救援1000枚限定チャリティーCD。副題“Fairport With Swarb At Derby”。2003作。Front Row)
- *DAVE SWARBRICK WITH FAIRPORT CONVENTION:SwarbAid ¥1500
(“The Bonny Black Hare”, “My Heart’s In New South Wales”, “Rosie”, “When I Paint My Masterpiece”の4曲入チャリティーCD。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:Over The Next Hill C
(2004作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows? ¥1580
(副題“The Woodworm Archives Vol. 1”。1975年10月31日のUxbridge Brunel Universityでのライヴ。メンバーはSandy Denny, Trevor Lucas,

- Jerry Donahue, Dave Pegg, Swarb, Bruce Rowland。曲目は“Rising For The Moon”, “One More Chance”, “Stranger To Himself”, “Sloth”, “John The Gun”, “Down In The Flood” [B. Dylan 作], “Who Knows Where The Time Goes?” 他全 13 曲。2005 作。Talking Elephant)
- *THE COMPLEAT DANCING MASTER B
(74/2002 作。Fledg'ling)
- *LINDA THOMPSON: Give Me A Sad Song B
(未発表 & 希少曲集。17 曲。2001 作。Fledg'ling)
- *RICHARD THOMPSON: Henry The Human Fly B
(デビュー作にして孤高。オリジナル・ジャケットにはなかった希少写真付。
w. Sandy Denny, Linda Peters, Andy Roberts, Ashley Hutchings,
John Kirkpatrick, Barry Dransfield, Pat Donaldson, etc.
72/2004 作。Fledg'ling)
- *RICHARD&LINDA THOMPSON: Hokey Pokey a
(リマスター。未発表ライヴ音源 5 曲ボーナス曲入。75/2004 作。Island)
- *RICHARD THOMPSON: Mirror Blue (94 作。Capitola) ¥1780
- *RICHARD THOMPSON: Action Packed C
(副題“The Best of the Capitol Years”。息子 Teddy との新録 1 曲
と初 CD 化 2 曲を含むリマスター全 19 曲。2001 作。Capitol)
- *ASHLEY HUTCHINGS: Kickin' Up The Sawdust B
(リマスター。77 作。BGO)
- *THE ALBION BAND: Albion Sunrise A
(副題“The HTD Recordings 1994-1999”。全 32 曲入 2 枚組。2004 作。
Castle)
- *THE ALBION BAND: Acousticity-On Tour B
(Ashley Hutchings, Simon Nicol, Chris While, Ashley Reed のラインナップの Albion の 93 年と 94 年のライヴ音源からの編集 CD。2004 作。
Talking Elephant)
- *THE ALBION BAND
: Another Christmas Present From The Albion Band B
(“Live In Concert”。2010 作。Talking Elephant)
- *MORRISON B
(モリス・ダンス曲をフォーク・ロック化した 70 年代ブリティッシュ・フォークの名盤。Ashley
Hutchings, R. Thompson, D. Mattacks, J. Kirkpatrick, B. Dransfield。
ゲスト: Shirley Collins。72/2002 作。Fledg'ling)
- *ALBION BAND: Heritage ¥2080
(これ何だろう? と思って仕入れたら、ボーナス曲 4 曲入計 12 曲の“Rise
Up Like The Sun” [77 作] だった。黄金期の Albion ですね。ゲスト:
Kate McGarrigle, Richard&Linda, Martin Garthy, Andy
Fairweather-Low。77/2001 作。EMI Plus)
- *ALBION BAND: Albion Heart (95 作。HTD) B
- *ALBION BAND: Demi Paradise (96 作。HTD) B
- *ALBION BAND: The Acoustic Years 1993-97 A
(未発表曲 2 曲を含む編集 CD。全 17 曲。HTD)
- *ASHLEY HUTCHINGS: Rattlebone&Ploughjack B

(Morris Dance&Molly Dance Album.76作。BGO)

*ASHLEY HUTCHINGS DANCE BAND

:A Batter Pudding For John Keats(96作。HTD) ¥1780

*ALBION DANCE BAND:The Prospect Before Us C

(リマスター。76作。BGO)

*RIDGERIDERS:In Concert B

(Ashley Hutchings, Chris While, Phil Beers から成る Ridgeriders のアコースティック・ライヴ。Ashley がらみのアルバムの中でも最もインクランド的で唄や音楽に最も真摯なアルバム。全18曲。2001作。Talking Elephant)

*DAVE SWARBRICK&FRIENDS:The Ceilidh Album ¥700

(CD-Rにつき検盤済み。1978年発売の“The Ceilidh Album”に1977年音源の2曲を加えたチャリティー・アルバム。w. Simon Nicol, Dave Pegg, Bruce Rowland, Beryl&Roger Marriott, Allan Robertson。Atrax)

*DAVE SWARBRICK WITH SIMON NICOL:In The Club ¥700

(CD-Rにつき検盤済み。1982年のカセット・アルバムに81年、83年、84年音源5曲を加えたチャリティー・アルバム。全16トラック。2001年作。Atrax)

*ECLECTION:Eclection C

(オーストラリア人女性シンガー、Kerrille Male に Trevor Lucas, Gerry Conway, Michael Rosen, Greorge Hultgreen から成るフォーク・ロック・バンド。彼ら唯一の68年作の本作はプレ・フェアポート/フォザ・ソング・デイズのといつか、米国西海岸ロックの影響を受けた初期ジェファースン・エブレンのサイケ・ロック。2001再発。Collector's Choice Music)

*THE BUNCH:Rock On A

(Sandy Denny, Richard Thompson, Linda Peters, Ashley Hutchings, Dave Mattacks, Pat Donaldson, Ian Whiteman, Gerry Conway, Trevor Lucas, Tony Cox, Dundee Horns。1972/2003作。Fledg'ling)

[CD/FOLK ROCK]

*MARY JANE:Tacit A

(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求める Mary Jane の3枚目はライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Trees のフレイグ・アールがお好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”, “She Moved thro' the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000作。Seventh Wave)

*THE STEPPES:Drop Of The Creature a

(アイルッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。Delerium)

*STONE ANGEL:East Of The Sun B

(Stone Angel の素晴らしい New。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。2001作。Kissing Spell)

*THE FOLD:Close Up B

(Steve Holland と Joanna Shiel のかっこいいヴォーカルをフィーチャーした

英国的美意識発散のフォーク・ロック。体を張ったエレクトリック・ギターやドラムやベースの音が何とも快感。97作。(Orange Sky)

[LP+CD/ENGLAND]

- *BELLOWHEAD: Matachin D
(イングランド屈指の大型トラッド・バンドの最近作のボーナスCD付カラーLP限定盤。2008作。Navigator)

[BOOK+CD/ENGLAND]

- *THE HALLIARD: Broadside Songs ¥2980
(再結成 Halliard {Nic Jones, Dave Moran&Nigel Paterson}の新録曲10曲と1968年録音の7曲の計17曲CDとプロトタイプ・ソング30曲収録ソングブック{A4版P46。メンバー3人のサイン入!}のセット。2005作。Mollie Music)

[DVD/ENGLAND] PAL all regions

※PAL専用DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

- *NIC JONES: The Enigma Of Nic Jones D
(1982年二月の交通事故の振り返りから幕開けするNic JonesのドキュメンタリーDVD。Nic JonesをはじめとしてJim Moray, Chris Wood, Martin Carthy, Eliza Carthy, Anais MitchellそしてAshley Hutchingsなど多くのミュージシャンや音楽関係者がNic Jonesについて語ったり、うたったり、ギターをかき鳴らしたりする場面の後、2010年の“Sidmouth Folk Festival”でのNic Jones Trio {Nic Jones, Joe Jones, Belinda O’Hoooley}のライヴが収められている。加えて“Extras”として、Nic Jones Trioが三曲、Eliza Carthyが一曲、Blair Dunlopが一曲、Pete Coeが二曲、ホーム・コンサート風ライヴで収録されている。Nicのこやかな表情と穏やかなシンキングが印象的。88分。Topic)
- *THE WATERSON FAMILY: Live At Hull Truck B
(Norma, Eliza, Mike Waterson, Martin Carty, Mikeの妻Ann, Mikeの娘Rachel, Eleanor, Lal Watersonの息子Oliver、娘MarryのWaterson Familyの2010年の“Homecoming Concert”ライヴ。まるで肝っ玉母さんNorma Watersonの司会進行役。各出演者の見どころ、聴きどころ色々なWaterson一家の伝統歌謡。Mike Waterson翁のシンキングは特に聴きもの。いつの間にやらElizaの貫禄は母Norma以上。“Bright Phoebus”, “Fine Horseman”他全22曲。誕生日の祝いもある至福な2時間11分32秒。2011作。Beautiful North)
- *MARTIN SIMPSON: Prodigal Son – The Concert C
(ロンドンのUnion Chapelでのライヴ。15トラックの17曲のライヴとMartinの故郷の小学校や生まれ育った町や家を訪ね、子供時代のことを振り返る映像。放蕩息子だったMartinが亡き母へ捧げた曲を含む1曲目のメドレーは何より圧巻で、慎重に音を選ぶギターの演奏を含め、ライヴならではの迫真の演唱は感動的。共演者はAndy Cutting {アコ}, Kellie White {ヴォーカル}, Andy Stewart {ベース}。2時間10分。2009作。Topic)

[DVD/ENGLAND] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- *ELIZA CARTHY:My Music A
(Eliza Carthy with Jon Boden, John Spiers, Ben Ivitsky, Gideon Juckes の白熱の生演奏からスタートする Eliza Carthy のドキュメンタリー・フィルム。Eliza Carthy のソロの生演奏と上記編成バンドの生演奏をの合間に、Watersons のライヴ {モノカというのが時代を感じさせる} や Martin Carthy のギター演奏や Marry Waterson&Oliver Knight のライヴや Billy Bragg や Norma Waterson の話しなどを挟む構成。Eliza の渾身の生演奏とシンキングと Eliza が身近に感じられる DVD。Eliza のパワー溢れるフットル演奏が物凄い。45 分。2013 作。Gonzo)
- *JOHN RENBOURN・JACQUI McSHEE:In Concert A
(John の穏やかで鮮やかなギターと唄、そして Jacqui のシンキングはそのアコースティックな空気と相まって、ある種清涼感さえ感じられる気持ちのいいもの。ゲスト:Clive Carroll。1 時間 22 分。2005 作。Hard Road Recording)

(CD/ENGLAND {Free Reedリイシュー盤})

- *THE OLD SWAN BAND:The Old Swan Band a
(ダンス音楽としてのみならず、イングランドのトラッド・アルバムとして魅力的な OSB の 78 年の 2 枚目。コンサティナ&トロンボーンの Mel Dean の加入効果かバンドの音楽は躍動的でダイナミックに変身し、男女の古風なシンキングは大空をかけるように輝いている。イングランドのダンス音楽の一つの頂点的。1978/2008 作。Free Reed)
- *ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT a
:The Rampin' Cat
(イギリスのラグタイムやスキップ、ジブシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的な唄のコミック・バンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の 76 年のデビュー作とアルバム・ミュージシャンでコンサティナ奏者の Michael Hebbert の 76 年のデビュー作の"2 on 1"。ゲスト:Rod&Danny Stradling, John Tams, Steve Bentley, Andrew Frank {ヴォーカル}。全 22トラック。1976/2008 作。Free Reed)
- *ALISTAIR ANDERSON:Concertina Workshop a
(副題"Traditional Music On The English Concertina Played Alistair Anderson"。High Level Ranters で今もコンサティナ演奏家そして教師として活動している Alistair の 74 年作。本作に即した 28 曲収録の楽譜はイングリッシュスタイルのコンサティナを学ぶ生徒に人気。模範演奏として最高の音楽。w. Dave Richardson, Tich Richardson, Geoff Harris, Graham Pirt {見事なトラッド・シンキング!}。A. L. Lloyd のオリジナル・リナー・ノート付。14トラックの 28 曲。1974/2008 作。Free Reed)
- *THE TRANSPORTS"The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy"D a
(30 周年記念再発盤。Fairport による"Dance:The Convicts' Wedding"のボーナス曲入り。1977 年/2008 作。Free Reed)
- *THE BALLADS OF PETER BELLAMY a
(副題"Big Broadside & Barrack Room"。Copper Family や Watersons との共演や未発表音源曲数曲を含む編集盤。全 17 トラ

ック。2008 作。Free Reed)

[Vinyl EP/ENGLAND]

- *MARTIN CARTHY & DAVE SWARBRICK: No Songs ¥1690
(1967 年に Fontana から発売されていた幻?の EP “No Songs” が 7 インチ EP 盤で再発売された。タイトル通り唄はない。面白いのはアイリッシュの二曲と Fairport のレパートリーの “Jenny’s Chickens” の三曲での Martin のリズムギターと何と! Dave Swarbrick のマンドリンのコラボのノリの良さ! 全体的な印象はマンドリンとフィドルの Swarbrick がリーダーシップを取る演奏をし、Martin が縁の下の力持ち的に的確かつちょっぴり遊びのあるリズムギターで饗演した印象。新時代を築く直前の気力が満ちた演奏を実感できる見事な演奏集だ。曲目は A 面が “Gillen’s Apples”, “Snug In The Blanket, Grey Daylight”, “Jenny’s Chickens, The Banks” の三トラックで、B 面が “The Bee’s Wing”, “The Irish Washerwoman, The Ash Plant”, “Bonny Kate, The Reconciliation” の三トラック。1967 年/2017 作。Fledg’ling)

[Single CD/ENGLAND]

- *EQUATION: In Session ¥1200
(Kate Rusby&Kathryn Roberts+Lakeman Brothers の五人組。
1995 年のライヴ。全三曲。Crapstone Music)

[CD/ENGLAND]

- *MELROSE QUARTET: Dominion C
(2/6 入荷予定。Nancy Kerr {ヴォーカル、フィドル} & James Fagan {ヴォーカル、ブズーキ、ギター} に Jess Arrowsmith {ヴォーカル、フィドル}, Richard Arrowsmith {ヴォーカル、モーデイオ} によるイングランドのスーパー・トラッド・グループの二枚目。Nancy&James がきっちりトラッドしたら、やはり文句の付けようがない。全員がシンガーという利点を活かしたアパラチア民謡 “Mariah’s Gone” のアカペラから幕を開ける本作は、Copper Family や Peter Bellamy の古き良きトラッドの匂いが感じられる本醸造のイングランドのトラッド。Nancy&Jess のヴォーカル・デュエットなどは Silly Sisters のデュエットを想起もさせるし、何より Nancy のシンギングの味わいは天下第一品。2017 作。Melrose Quartet)
- *ANGE HARDY: Bring Back Home C
(音楽、ブックレット、イラストなど全て幻術品で芸術品の夢物語フォーク・シンガーの Ange の新作。本作はテーマを決めずに台所のテーブルで唄を創ったという。その結果生まれたのは悪魔を追いかけまわしたり、家庭に回帰する音楽になったという。そんな自作曲 12 曲と伝統歌二曲の計 14 曲を収録した本作は、ケルト音楽風優美さと英国トラッド風優美さが感じられる不思議な夢物語歌として結実している。その本質的に物語歌のフォーク/トラッド志向を強く保持した上での幻術的な音楽性の高さは、比類がないほど秀逸。夢物語(ではなくとも、そう錯覚させる)の世界へと

誘う Ange の自然体の優しいシンギングとともに自身のハーブとギター、Peter Knight のフィドル{言葉が見つからないほど絶妙}、John Dyer のフルート、Alex Cumming のアコ、Lukas Drinkwater のベース、Evan Carson のパーカッションなどの心からの優しい音楽は耳を悦ばせる。完璧。P28 のブックレット。ディスクには悪魔を追いかける絵。2017 作。Story)

*ANGE HARDY:Esteesee

G

(英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・コールリッジ {1772 年-1834 年} の詩にインスピレーションを得て創作されたアルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォークの真の優美さを表出。独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出していて素晴らしい。w. Steve Knightley, Patsy Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*KATE RUSBY:Angels And Men

G

(Kate のクリスマス・アルバム。二年前の“The Frost Is All Over”が Kate Rusby with Damien O' Kane の「シンギング・ウイズ・ギター」を要にしたクリスマス・アルバムだったのに対し、本作は「シンギング・ウイズ・バンド」による彩り感のあるクリスマス・アルバム。Kate 自身のシンギングはいつものシンギングだが、フリューゲルホーンやコルネットなどの吹奏楽器を加え、かつフォーク、ロック、ジャズなど様々な音色で彩る Damien のギターとバンジョーの演奏は、Kate 本来の魅力に加えて、Kate 独自のトラッド音楽の世界の幅を独自の手法{フォーク・ロック風ではなく、ブラス・モンキーなどの伝統的ブラス・サウンドと多様な音楽性をミックスさせる手法}で広げていて、魅力的。ささやかながら、このある種「型を破る」試みは、結果的にクリスマス・ムードを高めてもいる。これはご主人の Damien O' Kane のアイデアなのだろう。ブックレットの全ページで天使を装った Kate を拝める。Richard Thompson の “We' ll Sing Hallelujah” {Richard&Linda の “I Want To See The Bright...” 収録} 他全 13 曲。2017 作。Pure)

*THE TRANSPORTS “A Tale Of Exile And Migration”

B

(Peter Bellamy の伝説的名作 “The Transports” {オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的事実をもとに制作されたバラッド・オペラ} から 40 年。その “The Transports” を新たなラインナップで、再演したもの。新たなラインナップは、The Young' uns {Sean Cooney, David Eagle, Michael Hughes}, Faustus {Benji Kirkpatrick, Saul Rose, Paul Sartin} に Nancy Kerr, Rachael McShane, Greg Russell, Matthew Crampton の、トラッド二世世代の精鋭達十名。Nancy Kerr と Rachael McShane の歌姫二人のシンギングが光っている。全 28 トラック。2018 作。Hudson)

*THE TRANSPORTS “A Ballad Opera By Peter Bellamy”

D

(在庫一枚。ラインナップは、June Tabor, Nic Jones, A. L. Lloyd, Martin Carthy, Norma Waterson, Mike Waterson, Dave Swarbrick, Vic Legg, Cyril Tawney, Martin Winsor. “Folk Album Of The Year” 賞受賞アルバム。1977 年/1992 作。Topic)

*THE TRANSPORTS “The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy” D

(在庫一枚。30周年記念再発盤。Fairportによる“Dance:The Convicts’ Wedding”のボーナス曲入り。1977年/2008作。Free Reed)

- *THE BALLADS OF PETER BELLAMY a
(副題“Big Broadside & Barrack Room”。Copper Family や Watersons との共演や未発表音源曲数曲を含む編集盤。全17トラック。2008作。Free Reed)
- *JOHN KIRKPATRICK Coat-Tails Flying B
(アコ、コンサーティーナ、メロディオンなどを持ち替え持ち替えて、ジャバラを弾きながらシンギングする John Kirkpatrick の何と生き活きとして楽しげなこと！曲目の約半数は伝統曲で、世界大戦時代の唄、農作業の唄、シュロップシャー地方の唄、自作曲、モリス・ダンス曲等などがあるときは誇らしげに、またあるときは小躍りするかのよう、またあるときは意気揚々と、唄の世界の主になったかのようにシンギングする。もうかなりのご年配なのに声の艶の良さと跳躍力あるリズムに、そして何よりポジティブな音楽に驚かされる。唄と音楽にモリスダンスのはねる気分と高揚感が充ちてる感じだ。日々是好日なワンマン英国トラッド・アルバムだ。全14トラック。2017作。Fledg’ling)
- *DOGGERLAND:No Sadness Of Farewell B
(英国人 Richard Burgess {ヴァーカル、コンサーティーナ、ギター他} とスウェーデン人 北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin {ギター、ハーモニカ、バイオリン} の二人組“Doggerland”のデビュー作。英国フォーク&トラッド的感性なのだが、北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくて、夢想的というか、Richard のシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック・サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。Richard Burgess なるシンガーの名は初耳なのだが、彼のシンギングに加えて、Anders の演奏を含む二人の演奏の見事さは、まさに孤高。w. Kevin Henderson, Mats Eden。2017作。Westpark)
- *LEVERET:Inventions B
(Andy Cutting {アコ、メロディオン} に Full English の Rob Harbron {コンサーティーナ} そして Bellowhead, Eliza Carthy Band, Full English の Tom Sweeney {ヴァイオリン、ヴァイオリン} から成る Leveret の本作はスタジオ・ライヴ録音盤。イングランド的な気品とロマンティックさが音楽の根っこに感じられる、それも爽やかな風を肌を感じるような気持ちのよい音楽だ。音楽はモリス・ダンスの曲調だったり、トラッドの曲調だが、好きな散歩コースを曲にした曲や友達に捧げた曲や好きな曲からひらめいて作った曲等、風景が浮かぶような一曲一曲は、気流のように連なって躍り舞う。2017作。Rootbeat)
- *CHRIS WOOD & ANDY CUTTING:Knock John(1999作。RUF) C
- *TWO DUOS QUARTET:Half As Happy As We C
(Andy Cutting, Chris Wood, Karen Tweed, Ian Carr の四人組。1999作。RUF)
- *TWEED&CUTTING:One Roof Under A
(Poozies~Swap のピアノ・アコーディオン奏者の Karen Tweed と

Blowzabella～Wood&Cutting～Fernhill のアコーディオン奏者の Andy Cutting のアコーディオン・デュエット・アルバム。当時、Andy Cutting に恋をしていた Kate のアコは本当にウキウキしている。ゲスト:Ian Carr。天下一品。2002 作。Fasco)

*IAN CARR・KAREN TWEED:Fyace A
(Karen Tweed と Ian Carr のアコーディオンとギターのお遊び、楽しい会話そしてダンス。名人芸。97 作。Compass)

*1651:Cast A Bell A
(元 Pyewackett で June Tabor の音楽アドバイザー Mark Emerson の企画 [ブレイフォードの "English Dancing Master" の曲の新たな蘇生] に Andy Cutting [アコ] と Tim Harries [ダブルベース] が協力したもの。素晴らしきブレイフォードの世界。2001 作。Beautiful Jo)

*GRAHAM & EILEEN PRATT:Early Birds A
(元 Regal Slip の Graham&Eileen Pratt の 1980 年の "To Friend And Foe" [11トラック] と 1985 年の "Hieroglyphics" [4トラック] の 15 トラック収録の編集盤。フォーク・クラブを中心に活動してきた二人によるイングランドにこだわらずスコットランド [Flora MacNeil から学んだリルティングや作業唄など]、アイルランドなどのトラッド中心の選曲。良き伝統歌を見つけては、唄に心寄せ、Graham がギターを爪弾き、二人でシンギングしたもの。素直さと素朴さが快い。1999 作。Gail)

*THE DOVETAIL TRIO:Wing Of Evening B
(Rosie Hood [ヴォーカル]、Jamie Roberts [Gilmore & Roberts の Roberts/ヴォーカル、ギター]、Matt Quinn [コンサティナ、ヴォーカル] の一姫二郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の清々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありながら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015 作。Rootbeat)

*GREG RUSSELL:Inclined To Be Red B
(Greg Russell&Ciaran Algar のシンガー&ギター奏者の Greg のソロ。ブリティッシュ・フォークなキリッとしたギターの弾き語り を要にした Greg のシンギングの何と格調高いこと！ラウド・フォーク・コレクションからの伝統歌三曲や Dick Gaughan の名唱で知られる "The Star Of The County Down" の替え歌 "Crooked Jack" [1978 年作の "Gaughan" 収録] や自作の唄四曲などを、まるで、彼にとっては親の世代のブリティッシュ・フォーク&トラッドを切り拓いた巨匠シンガー達の精神に立ち返るほどの実直さで、うたい通している。身震いの傑作。w. Archie Churchill-Moss [アコ]、Tim Yates [ダブルベース]。2017 作。Fellside)

*CIARAN ALGAR:The Final Waltz B
(2013 年に BBC2 の "Young Folk Award" 賞受賞の Greg Russell & Ciaran Algar の天才アイリッシュ・フィドラーの Ciaran のソロ・デビュー作。2015 作。Fellside)

*BRAM TAYLOR:Jokers & Rogues A
(光に照らされた新緑の葉っぱのような清々しい唄だ。本作が 10 枚

- 目を数え、レコーディング・アーティストとしてヴェテラン・シンガーの B. Taylor の唄は、齢を重ね、逆に若々しい。Dylan の "I Shall Be Released" はアコースティック・ギターとエレキ・ギターを交えた伴奏で、70 年代フォークぼくどことなく Iain Matthews っぽくもある。美味ブリティッシュ・フォーク。2012 作。Fellside)
- *THE GIFT BAND: Live On Tour A
(Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthy の親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David Donnelly の Gift Band による 2010 年の Union Chapel でのライブ二枚組。Norma の豊富なレパートリーを中心に、トラッドと SSW 系フォークの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全 17 トラック。2011 作。Scarlet)
- *ELIZA CARHY・TIM ERIKSEN: Bottle C
(本作は 2013 年の夏から 2015 年の一月の間に、Eliza Carthy と Tim Eriksen がデュオで行ったライブからの 13 トラック。本作は、副題 "A Game For Two Players" の通り、英米トラッドのゲームなのだ。Eliza はトラッド・シンガー&フィドラーとして、そのまま。そこに Tim がエレキギターをかき鳴らしたり、ギターやバンジョーを弾いて、渾身のシンギングで対抗する。そのシンギングたるや Eliza 以上に英国トラッド臭かったりする。二人とも +α のパワーを噴出している。Navigator。2015 作)
- *TOM McCONVILLE: Tommy On The Road B
(ヴェテラン・ミュージシャンの T. McConville の本作はノーサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイリッシュを加えた唄とフィドルのアルバム。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物は Ewan MacColl 作 "Jamie Foyers" Benny Gallagher 作 "Stay Young" や Steve Tilston 作 "Slip Jigs and Reels" 等、Tom の温厚なヴォーカルが心に沁みるちょっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。a. Chris Newman, Aaron Jones, Shona Kipling, Damian O' Kane, David Newey。2010 作。Tomcat Music)
- *THE BALLADS OF CHILD MIGRATION A
(副題 "Songs For Britain's Child Migrants"。1869 年から 1970 年の間に、約 10 万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約 9 万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄を作詞作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While&Julie Matthews {4 曲}, Jez Lowe {4 曲}, John Doyle {1 曲}, Coope Boyes&Simpson {2 曲}, John McCusker {フィドル演奏。1 曲}, Boo Hewerdine {2 曲}, Belinda O' Hoooley&Heidi Tidow {2 曲}。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CD ブック型 CD。2015 作。Delphonic)
- *ROBIN DRANSFIELD: A Lighter Touch ¥2800
("Tidewave" と 1972 年の未発表音源ライブの二枚組。全 25 トラック"。2008 年。Hux)
- *BARRY DRANSFIELD: Be Your Own Man (1994 作。Rhiannon) D
- *STEELEYE SPAN: In Concert 2800
(Featuring Maddy Prior. 未発表音源の CD と DVD セット。2002 作。)

Classic Rock Pro.)

*CHRIS FOSTER:Traces(2003 作。Green Man) B

*CHRIS FOSTER:Outsiders(2008 作。Green Man) B

*CHRIS WOOD:So Much To Defend C

(全曲自作作曲で占めた本作は、英国トラッドの香りを立たせていたこれまでの彼の音楽とは違って、唄が内面に向けられているというか、うたう心が素直な感じがする。二曲目“This Love Won’t Let You Fail”は、わが子が家を離れた両親の寂しさをうたった唄だが、自身の優しいギターと Gary Walsh の優しい Hammond オルガンの音色とともに、胸にぐっとくる。全曲、内面からわき上がるものをそのままギターを爪弾き、うたったかのような唄は、祈りにも似た内なるパワーを感じずにはいられない。2017 作。RUF)

*NANCY KERR & JAMES FAGAN:Twice Reflected Sun A

(北イングランドのトラッド・スタイルを保持した Nancy&James のシンギングとフィドル、ブラス・キ、ギターの伴奏は本作においても快調。とりわけ Nancy の北イングランド流の凜としたシンギングは格別で、自作作曲での豊かな詩情は、James の表現力豊かなブラス・キと Nancy の北イングランドの空気たっぷりな緩急自在なフィドルの伴奏と相まって、孤高の輝きを放っている。2010 作。Navigator)

*FAUSTUS:Faustus(2008 作。Navigator) A

*MR. MARTIN SIMPSON & MR. DOM FLEMONS

: A Selection Of Ever Popular Favourites A

(2015 年の秋に Martin Simpson と Carolina Chocolate Drops の創設メンバーでアメリカン・ソングスターの Dom Flemons がデュオを組んで、コンサートを行ったときのライヴ。曲目は米国の白人黒人の枠を超えた古き良き音楽。Martin ファンが聴けば、Martin の米国趣味の音楽に大衆性が増したように聞こえて、面白いだろうし、Dom Flemons のファンが聴けば、米国庶民の古き良き音楽音楽に品性が備わったように感じられて、新鮮な印象を持つだろう。米英の個性派が混ざり合って、ある種異種交配的な面白さもある米国の古き大衆音楽の世界だ。2016 作。Fledg’ling)

*MARRY WATERSON AND DAVID A. JAYCOCK:Two Wolves B

(Waterson ファミリーの Marry の本作は、彼女が追い求めてきた 70 年代ブリティッシュ・フォーク風フォークを極めたあの時代の空気感をピュアに保持した信じられないほど心ときめく音楽。その空気感を演出するのはギタリストの David A. Jaycock の魔法的に美しいアコースティック・ギターの響き。w. Kami Thompson, Neill MacColl, Kate St. John, Simon Edwards。2016 作。One Little Indian)

*MARRY WATERSON & OLIVER KNIGHT:Hidden A

(Waterson ファミリーの子世代の Marry&Oliver の本作は、Oliver の、まるでギターのアコースティック&エレキ・ギターをフィーチャーした夢模様のブリティッシュ・フォーク・サウンドの中、Marry は彼女ならではの独特な唄の世界を創作している。w. Eliza Carthy, Miranda Sykes, Barry Coope, Jim Boyes, Lester Simpson, etc. 2012 作。Little Indian)

- *CROWS:Time To Rise! B
 (Crows は 1977 年から 1987 年まで活動したイングランドを代表する
 トラッド・グループで、メンバーは Mick Ryan, John Burge, James
 Patterson, Ralph Jordan の四名。1981 年に“Crows”、1986 年に“No
 Bones Or Grease”の二枚のアルバムを発表。本作は一枚目から 6
 曲、二枚目から 2 曲に加えて、1982 年と 1983 年にラジオ番組のため
 に収録した未発表音源から 8 曲を加えた新譜。2016 作。WildGoose)
- *JIM CAUSLEY:Forgotten Kingdom C
 (Jim Causley の五枚目に当る本作は、4 世紀から 8 世紀にイン
 グランド西南部を支配していたケルト王国ダムノニアを夢想して
 制作されたもの。w. Jackie Oates, Phil Beer, Steve Knightley
 , Miranda Sykes, Rex Preston, Phillip Henry, Hannah Martin,
 James Dumbelton, Seth Lakeman, Steve Tyler, Katy Marchant,
 Lukas Drinkwater, The Claque, Ninebarrow, Mark Bazeley,
 Kathryn Roberts, Nick Wyke & Becki Driscoll, Reese Wesson,
 Chris Hoban & Old Uncle Tom Cobley。2016 作。Hands On Music)
- *PETE MORTON:The Land Of Time A
 (Pete Morton のようなトラッドとフォークの両要素を保持し、社
 会的な唄やラヴ・ソングやウイットの利いた唄などの自作曲を様
 々な曲調で自由にうたうフォーク・シンガーが昨今少なくなった
 が、久々に聴く Pete Morton の唄は、まるで広い大地に立って、遠
 く彼方を見やうたっているかのように、唄が健やかでたくま
 しい。英国フォークの伝統に根ざした「アナログ」な唄の数々だ。
 w. Linda Adams, Chris Parkinson, Jon Brindley, Ciaran Algar,
 James Budden。2015 作。Fellside)
- *FOLK AWARDS 2010 a
 (2010 年 BBC Radio2 のフォーク賞各部門にノミネートされたシンガー/グループ
 {Cara Dillon, Show Of Hands, Unthanks, Maukin:Causley, Martin
 Simpson, Hannah James&Sam Sweeney, Bellowhead, Jackie Oates,
 Lau, John Kirkpatrick, Jon Boden, Megson 他} の 2 枚組 CD。全 22 ト
 ラック。2008 作。Proper)
- *PETE COE:In Paper Houses (2004 作。Backshift) C
- *DAVID ROTHERAY'S "The Life Of Birds" A
 (David Rotheray の作曲曲を主にイングランドのトラッド/フォーク系シンガーが
 うたうシリーズの第一作目。Eliza Carthy, Bella Hardy, Kathryn
 Williams, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Jim Causley, Eleanor
 McEvoy, Camille O'Sullivan, Jack L, Nat Johnson。全 14 トラック。
 2010 年。Proper)
- *YOUNG TRADITION:Oberlin 1968 B
 (Young Tradition [Peter Bellamy, Royston Wood, Heather Wood] の
 1968 年 11 月 17 日、米国の Oberlin College で行われたライブ。イング
 ランドのトラッド・ファンなら冷静には聴けない見事なアカペラによるトラッド・シ
 ンギング・アルバム。三人のシンギングは極めてストイック。そのストイックさが音楽
 的にイングランド的気品を生み、伝統歌の質をピュアに高めている。
 Peter Bellamy のシンギングのみならず、Royston も Heather もオーラを放
 つほどに見事なシンギングを高く貫いている。滅茶苦茶素晴らしい。

アパラによるイングランドのトラッド・シンギングの原点であり、一つの理想型。全25曲。1968/2013作。Fledg'ling)

- *PAUL DOWNES: The Boatman's Cure B
(Paul Downes を初めて知ったのはフォーク・ロック・バンドの Arizona Smoke Revue だった。彼がレコーディングに関わったアルバムは約250枚もあるという。本作はソロ・アルバムとしては五枚目。"Farewell Nancy"等のトラッドと Mick Ryan, Harvey Andrews 等のフォーク系 SSW のメンバーが半々の本作は、Paul の人情派? 熟練フォーク・シンガーとしての味わいがじっくり味わえる一枚になっている。w. Maggie Boyle, Jackie Oates, Phil Beer, Keith Kendrick, Gill Redmond。全12トラック。2013作。WildGoose)
- *CYRIL TAWNEY: Man Of Honour B
(1997年のサット・アルバムがめでたくCD再発。本作はフォーク・シンガーの Cyril が自作曲14曲を1995年~1997年にギターの弾き語りを中心に収録したアルバム。副題を付けるとすれば「酒と女と海」だろうか。この副題だと、トム・ウエイを思い浮かべそうだが、中身は真逆。Cyril の「酒と女と海」は、暖炉のある暖かな部屋で、昔の思い出を偲ぶ感じで、終始穏やかペース。ゲスト: Chris While。1997年/2012年。Talking Elephant)
- *JOHN KIRKPATRICK: The Dance Of The Demon Daffodils A
(2010年BBC2 "Folk Awards" の "Musician Of The Year" 入賞作。2009作。Fledg'ling)
- *THE FLYNN BROTHERS: The Flynn Brothers ¥2500
(Produced by Martin Carthy。推薦文: Davy Graham。1991作。Annadale)
- *THE YOUNG' UNS: When Our Grandfathers Said No A
(本作が4枚目のイングランド北東部出身の男性ヴァーカル・トリオ。メンバーは Sean Cooney {ヴァーカル}, David Eagle {ヴァーカル、キーボード、アコ}, Michael Hughes {ヴァーカル、ギター}。「今日のフォーク・シーンで、最も人気のある面白い奴らだ」とは Jez Lowe。2012作。Navigator)
- *PETER BELLAMY: Merlyn's Isle Of Gramarye A
(Rudyard Kipling の本 "Puck of Pooks Hill" と "Rewards And Fairies" からの Rudyard Kipling ソング集第二段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンギング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Nic Jones, Dolly Collins, Dave Arthur, Dik Cadbury, etc. 72/2011作。Talking Elephant)
- *PETER BELLAMY: Oak, Ash And Thorn A
(Rudyard Kipling の本 "Puck of Pooks Hill" と "Rewards And Fairies" からの Rudyard Kipling ソング集第一段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンギング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Royston Wood, Heather Wood, Barry Dransfield, Robin Dransfield。70/2011作。Talking Elephant)
- *WHEELER STREET: Live B
(Wheeler Street は、紅一点の Sophy Blundell がヴァーカルのフォーク・フェスやライブで人気急上昇中のケントの若者7人組トラッド・バンド。アイリッシュのノリと楽しさ、フォーク・ロックのノリと醍醐味そしてトラッド・シンギングの清澄さ等。彼らは彼らの柔らかい感性にフィットしたトラッドをあの手この手で若々しく、エネルギッシュに演唱する。Great! 2011作。Stump Nugget)

- *HOME SERVICE:Live 1986 A
 (メンバーは John Tams [リード・ヴォーカル], Howard Evans, Graeme Taylor, Roger Williams, Howard Evans, Steve King, Andy Findow. フォーク・ロック・バンドの横綱"Home Service"の1986年のライブ。場所はケンブリッジ・フォーク・フェスティバル。このライブは素晴らしい。John Tams のヴォーカルは威風堂々とし、バンドのサウンドは揺るぎがなく重厚。文句の言いようのない Home Service らしい怖れ知らずのフォーク・ロックのアルバム。2011 作。Fledg'ling)
- *MIDWINTER ¥6900
 (副題"A Celebration Of The Folk Music & Traditions Of Christmas & The Turning Of The Year"。P156 の解説本付4枚組ボックスセット。イングランドの著名フォーク&トラッド・シンガー大集合。クリスマス期音楽の集大成。2006 作。Free Reed)
- *VICKI SWAN & JONNY DYER:Stones On The Ground A
 (「フォーク・ソング」というのは石ころのようなものという Vicki&Jonny の本作はイングランドのトラッドと Vicki の母親の故郷スウェーデンのトラッドに Johnny のオリジナル曲を加えた作品。英国調とスウェーデン調の見事なトラッド・アルバムだ。2011 作。WildGoose)
- *VICKI SWAN・JONNY DYER:Gleowien (2009 作。WildGoose) A
- *ELIZA CARTHY:Neptune B
 (フォーク・スタイルのアカペラからミュージック・ホールの音楽、醍醐味あるフォーク・ロック、ユーモラスな音楽、エレガントな音楽、トピカルな音楽、ノスタルジックな音楽などまるで色んな音楽が飛び出す唄のヴァリエーションを観るような印象。そんな音楽を Eliza は各唄の主人公になり、演技するように意気揚々とうたっている。w. Phil Alexander, Willy Molleson, Bethany Porter, Emma Smith, Heather MacLeod. 2011 作。Hem Hem)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Up From The Deep C
 (二人のイングランド・スタイルの音楽は新たな生命力を持ち、すこぶる魅力的なフォーク&トラッドを創作している。2010 作。GR!)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Shadows & Half Light B
 (Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *TYDE:Tyde B
 (注目の北イングランドの若きトリオ。メンバーは紅一点のシンガーでフィドル奏者の Heather Gessey、ギター奏者の Seth Tinsley そしてアコ奏者の Andrew Waite。三人は若いながら、アイリッシュ、スコティッシュ、ノースブリアンなどの曲をヴァリエーション・ミュージック・セッション並に演奏し、驚かせる一方で、紅一点の Heather はノースブリアンの伝統音楽への傾倒が色濃いフィドルの演奏とシンキングで花を添えている。2010 作。Mrs Carsy)
- *MEGSON:The Longshot A
 (イングランドのベスト・フォーク・デュオとして評判の Debbie&Stu Hanna の二人組"Megson"の本作は新旧の労働者の暮らしにまつわる唄を集めたアルバムで伝統歌と自作曲がほぼ半々。特筆すべきはイングランドの薫りに充ちた二人のヴォーカル・ハーモニーの見事さ。2010 作。EDJ)
- *MEGSON:Take Yourself a Wife A

(イングランド北東部の伝統音楽に根ざしたフォーク・デュオの2枚目。2008作。EDJ)

- *MICK RYAN & PAUL DOWNES: Away In The West A
(Mick Ryan との付き合いも Mick Ryan&John Burge からだからもう32年。Mick の力強く、かつ伸びやかなシンギングは今が旬と思えるほど勢いがある。その勢いは彼のまるやかなシンギングとともに美しい唄をさらに美しい唄にもしている。これぞトラッド・シンギングの見本とりたいほどだ。聴き惚れてばかり。w. Jackie Oates, Paul Hutchinson。全14曲。2010作。WildGoose)
- *JOHN JONES: Rising Road C
(Oysterband のヴォーカルの J. Jones の徹底してイングランド気質の気骨あるソング。w. Seth Lakeman, Benji Kirkpatrick, Ian Kearny, Alan Prosser, etc. 2009作。トイWestpark)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
(2008年BBCラジオの“Best Newcomer”賞優勝の若き女性SSWのファーストアルバム。Lizzieの唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる。独特なのは本人とプロデュースの Vidar の二人ともが爪弾くウクレレとギターで、木漏れ日の心地よさというか、肌触りのよい手作りな響きが何とも何とも快い。2010作。Fellside)
- *CHRIS WOOD: Handmade Life B
(現在 Imagined Village で活動中で、イングランドを代表するトラッド・シンガーに成長した C. Wood の2010作。珠玉のブリティッシュ・トラッド/フォークアルバム。2010作。RUF)
- *PETE MORTON・ROGER WILSON・SIMON EDWARDS
: Urban Folk Vol. 2 B
(Urban Folk Vol. 1 とセットの2枚組。全24曲。97作。Harbourtown)
- *IAN KING: Panic Grass & Fever Few B
(Shirley Collins が「This is English folk music for the 21st century!」と言ったという期待の新星。“Adieu To Old England”, “Death and The Lady”他全13曲。2010作。Fledgling)
- *DAMIEN BARBER・MIKE WILSON: Under The Influence A
(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。70年代の英国トラッド・ファンへの推薦盤。Damien と Mike は Damien が奏でるコンサーティーナやギターが英国トラッドの土臭さを立てる中、Peter Bellamy や Dick Gaughan や Ewan MacColl 等のアルバムで覚えた唄を当時の彼らのシンギングの気概をそのままエレクトリックとして、奮起して毅然とシンギングする。ジャケットは70年代のLPジャケット風。2009作。Demon Barber Sounds)
- *ROGER WATSON: Past And Present A
(Muckram Wakes、New Victory Band を経て、トラッド・シンガー兼ジャズ奏者としてソング活動の道を歩むヴァイオリンの R. Watson の本作は、何とも心安らぐトラッド・シンギングとダンスの快樂さを保持した心身を芯からほぐしてくれる唄と音楽。滋味豊かなイングランドの香り漂う唄と音楽。w. Jackie Oates&Tim Walker。2009作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST: Frost Bites A
(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。イングランドのトラッド界

- の二匹の若獅子 Paul Sartin{ウォーカル、フィドル、オボエ}と Tom Paul Hutchinson{アコ} によるクリスマス音楽。2009 作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST:The Food Of Love B
(スタジオ録音とライブ録音の2枚組。本作は正に極上のイングランドのダンス音楽とトラッド・シンキング・アルバム。二人が奏でる音楽はイングランドのダンス曲の風合いをキープしつつ、他のモリス・ダンス・タイプの有名どころとは気高さや優雅さで上を行っている。2008 作。WildGoose)
- *DARWIN SONG PROJECT - Shrewsbury 2009 B
(フォーク・フェスティバルで企画されたスコットランド、イングランド、アメリカのトラッド・シンガーや SSW によるユニークなコラボレーション。ライブ・アルバム。メンバーは 8 名。Chris Wood, Karine Polwart, Jez Lowe, Emily Smith, Krisa Detor, Rachael McShane, Mark Erelli。一人から四人のグループで、一曲一曲をカバーする。最後は 8 人全員でシンキングの競演で幕。全 17 曲。2009 作。Shrewsbury Folk Festival)
- *JON BODEN:Songs From The Floodplain B
(2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Best Singer Of The Year" 入賞。P34 の写真・歌詞ブックレットの限定盤。本作はトラッドのメロディを借用した自作の唄が中心で、ギター、コンサーティーナ、メロディオン、ドラムス、バグパイプなどの英国トラッド臭わき立つ中、持ち前の威風堂々たるシンキングで釘付けにする。徹頭徹尾 Jon らしさが煮詰められたイングランドの気品と香り立つ傑作。2009 作。Navigator)
- *BELLOWHEAD:Matachin B
(2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Best Group" 入賞。P32 のブックレット付デラックス・エディション限定盤を販売。イングランドのトラッド・シーンの若獅子達 11 名によるスーパー・トラッド・バンドの 2 枚目。Jon Boden&John Spiers と Faustus の Benji Kirkpatrick と Paul Sartin を中心に外堀を管楽器やバグパイプやパーカッションで固めたお祭りバンド。イングランドのトラッドの可能性を大きく押し広げる頼もしい演唱の数々だ。2008 作。Navigator)
- *SPIERS & BODEN:Vagabond B
(Spiers&Boden の本作は一瞬たりとも耳が話せないまさに感電死級のイングリッシュ・スタイルのトラッド音楽でモリス音楽を含めたかれこれ 40 年のイングランドのトラッド音楽の金字塔的傑作。蛇足ながら、6トラック目で "Mary Anne" をうたってるのだが、実はこの唄は SSW の Shep Cooke が彼の 2 枚目でうたっていて、聴いていると私の頭の中で Shep のうたが重なって流れてくる。2008 作。Navigator)
- *UISCEDWR:Fish Cat Door C
(オリジナル・メンバーの Anna Esslemont {ウォーカル、フィドル}&Cormac Byrne {ハープ、パーカッション} に Karen Tweed {アコ} と James Hickman {ギター} が加わった Uiscedwr の 2009 作。フィドルとアコとハープとギターの妙技が冴えて、最高にグルヴィーなダンス曲を繰り広げる。数曲で聴ける Anna 嬢のウォーカルは純情無垢な可愛らしさ。2009 作。Yukka)
- *FOLK FOR MS "Generosity" A
(20 年の活動暦という FfMS {Folk For MS} 支援のための編集 CD。Jez Lowe, Barry Dransfield, Pete Coe, Dave Burland, Harvey Andrews, Roger Watson, Tom & Barbara Brown, Askew Sisters, Johnny

Coppin, Vin Garbutt, Huw&Tony Williams, Cosmotheke, Roy Bailey & John Kirkpatrick, Artisan, Cockersdale, Mike Nicholson 他提供による全 20トラック。2009 作。WildGoose)

- *MAWKIN・CAUSLEY: The Awkward Recruit B
(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Best Group” 入賞。James and David Delarre, Danny Crump, Alex Goldsmith の 4 人組 Mawkin に、今イングランドの若手トラッド・シンガーの中で、今最も伝統歌の心がうたえると評判の Jim Causley [Under One Sky/Devil's Interval] が加わった、今最も華のあるトラッド・グループ。Jon&John 的なイングリッシュ・スタイルのトラッドのコアに向かうトラッドで歓喜させ、ガールを中心として多彩なイングリッシュ・スタイルのトラッドで心遊ばせる。今が旬。2009 作。Navigator)
- *MOULTON MORRIS MEN: Where The Pavement Ends A
(1972 年に結成されたモリス・ダンス・バンドの 1979 年制作のアルバム [Dave Pegg&Simon Nicol のプロデュース] に 4 曲のボーナス・トラック加えて再発。全 20トラック。当時 Melody Maker 誌のフォーク・チャート 1 位。メンバーは Simon Care, Gareth Turner, Guy Fletcher, Dave Jolly, Gareth Warren で、その後モリス音楽の分野、特に革新的分野で大活躍するツヨモノ揃い。ライブ感たっぷり、モリス音楽の楽しさと醍醐味をたっぷり聴かせるモリス音楽の名作。2009 作。Talking Elephant)
- *ANDY MAY: Happy Hours A
(Jez Lowe Band のメンバーで若手ノサンブリアン・ハイパーの筆頭格の A. May の本作はまさに空を羽ばたく勢い。一曲一曲に彼の思い入れが込められた様々な表情のハイパー演奏が楽しめる。2009 作。Fellside)
- *JIM MORAY: Jim Morray A
(2003 年作のデビュー作は “Liege&Lief” 以来の最重要作」と評価され話題を呼んだが、前作同様オウ趣味に徹した Jim にしか創作出来ない Jim 印の耽美なイングランドのトラッドの世界。“全てが夢の中”。病み付き保証。2006 作。Niblik)
- *THE NAVVY'S WIFE D
(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイルッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- *THE MARTIN GREEN MACHINE “First Sighting” B
(Lau のアコ奏者 Martin Green のやりたい放題の実験音楽。ポータブルな彼の音楽性からある程度想像していたが、やはりジャンル分け困難な実験的でユーモラスでお遊び感覚のクロスオーバー音楽。色彩感豊かで、遊園地音楽とも言いたい音楽。彼はほつま遊び好きやな。子どものままの感性の音楽家。w. Inge Thomson, Barnaby Stradling, Tom Cook, etc. 2009 作。Navigator)
- *GRAHAM & SAM PIRT: Dance Ti' Thee Daddy A
(母親の膝の上で覚えたという伝承歌などのノサンブリアン・ハイパーのトラッドやそこで出逢ったトラッドなどを中心にした唄や音楽を父息子の親子でコンサーティナ&アコーディオンの伴奏で演唱したもの。シンキングは驚くほど

丁寧で穏やか。時の流れから隔離されたようなイングランド 東北地方の穏やかなトラッドの世界だ。(2008 作。Fellside)

- *SIMON CARE: Oh What A Caper A
(イングランドのダンス音楽シーンで、イングランドを代表する百戦錬磨のモータウン奏者の編集 CD。Whapweasel, The Lark Rise Bnd, The Albion Christmas Band, Edward 11, The Morris On Band など全 15トラック。2008 作。Talking Elephant)
- *RUBUS: Rubas A
(Rubus は Emily Portman 嬢がリード・ヴォーカルのイングランドの若きトラッド・バンド。11 曲中 10 曲が伝統歌。Emily のシンキングは往年のイングランド女性トラッド・シンガー・タイプ of 硬質で、凛として孤独感を漂わせる。音楽的には 70 年代風で、どこか Pentangle 的というか、雑多な音楽性を持っていて、独特な暗さと土臭さのあるイングランドのトラッド・サウンドを体現している。2008 作。WildGoose)
- *ELIZA CARTHY: Dreams Of Breathing Underwater A
(ライヴの空想的な夢音楽。w. Jon Boden, John Spiers, Martin Green, Eddie Reader, etc. 2008 作。Topic)
- *FAUSTUS: Faustus B
(Bellowhead の Benji Kirkpatrick {ヴォーカル、ギター、ブスーキ} & Paul Sartin {ヴォーカル、フィドル、オボエ} に Eliza Carthy の相棒で Waterson Carthy でイングランドのベスト・モータウン奏者の Saul Rose から成る新生 Faustus の 2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Boomerang B
(John Kirkpatrick の息子で Bellowhead, Faustus の Benji のソロ。1 曲を除き全曲 Benji のオリジナルで占められた本作は Bellowhead でのパワーをそのまま自身のソロに注入したような気骨あるブリティッシュ調 SSW アルバム。John Kirkpatrick & Sue Harris のご両親もバックアップ。2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Half A Fruit Pie (2004 作。Fellside) A
- *THE MAERLOCK: Sofa A
(Royal Northern College Of Music で出会って結成された女性 2 名と男性 3 名の若きトラッド・グループのデビュー作。Lau の Aidan O'Rourke が「独創的で力強いアンサンブル・サウンド」と評。2008 作。Fellside)
- *LEON ROSSELSON: Turning Silence Into Song A
(Leon 氏の社会風刺や機知に飛んだ唄は老いてもなおかくしゃくとしてハツラツ。そんな自由な唄を Martin Carthy がご機嫌なギターで踊るようにバックアップする。聴き手を笑わせながら、社会の不条理を説く Leon のようなシンガーはそうはいない。w. Frankie Armstrong, Miranda Sykes, Robb Johnson, Jody Stecher, etc. 2004 作。Fuse)
- *COOPE, BOYES AND SIMPSON: Triple Echo C
(副題 "Songs Collected by Ralph Vaughan Williams, George Butterworth and Percy Grainger"。約 100 年前のフォークソングの収集家の 3 名のコレクションから 17 曲をアカラトリアの CB&S がイングランド・スタイルのシンキングの薫り高く毅然とうたったもの。"Bushes And Briars" や "Lovely On The Water" ほか。2005 作。No Masters)
- *ARTISAN: Searching For Yorladale C

- (副題“Songs Of The Yorkshire Dales From The Words Of Yorkshire Poet, Dorothy Una Ratcliffe, With Music By Brian Bedford”.1988 作。Bedspring Music)
- *ARTISAN:Live C
(2002 年アメリカの WFMT Radio でのライヴ。30トラック。2005 作。Bedspring Music)
- *VIVIEN ELLIS:The Dawn Songs A
(中世音楽とトラッドの両方に造詣が深い Vivien は Alva 時代同様本作でもスコットランド民謡、アイルランド民謡、中世音楽、アパラチア民謡、宗教歌に加えてサバ・スタイルの 15 世紀イギリス起源の唄やブルガリア民謡等を極力素朴な美しさを追い求めたかのような凜とした清涼なヴォイスとブルガリア民謡等その民謡固有の味わいを強くしたヴォイスとで唄の世界を旅するように唄う。2006 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Knock At The Knocker, Ring At The Bell A
(副題“Carols, Songs & Tunes For The Christmas Season”。Andy Turner, Ian Giles, Marguerite Hutchinson, Mat Green, Sophie Polhill に Jon Fletcher から成るトラッド・グループ Magpie によるクリスマス・アルバムの名盤。2007 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Six For Gold(2002 作。Beautiful Jo) B
- *KATHRYN TICKELL BAND:Instrumental C
(Kathryn のノサンパリアン・スモール・イプスとフィドルが滅茶苦茶見事な飛びつきりの 2007 作。Band としての前作も素晴らしかったが、本作もパイプの鮮やかさと表現力の豊かさと多彩さに満ちた音楽に心躍らせる。2007 作。Park)
- *KATHRYN TICKELL+CORRINA HEWAT:The Sky Didn't Fall C
(ノサンパリアン・スモール・イプス&フィドルの K. Tickell と先進的ハープの Corrina のデュエットはスコットランドとノサンパリアンの伝統回帰かつ女性的優美さに包まれた音楽。二人は思い出の曲や馴染み深い曲を慈しむように演奏し、唄う。2006 作。Park)
- *THE RADIO BALLADS “The Song of Steel” B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプレゼンで BBCラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories Of The Men And Women Who Worked In The Steel Industry In The Don Valley”。2007 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS “Thirty Years Of Conflict” B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプレゼンで BBCラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories From Three Decades Of Sectarian Conflict In Northern Ireland”。Tommy Sands, Karine Polwart, Julie Mathews, Jez Lowe 等による 10 曲。2006 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS “The Ballad Of The Big Ships” B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプレゼンで BBCラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories From The Shipbuilders Of The Tyne And The Clyde”。John Tams, Karine Polwart, Jez Lowe 等による 14 曲。2006 作。Gott Discs)

- *NIC JONES:Penguin Eggs(不滅名盤。80 作。Topic) A
 *NIC JONES:Game Set Match A
 (Martin Carthy, Shirley Collins, Martin Simpson 等の音源提供で
 完成した N. Jones の 70 年代後半のライヴ を収録した CD。全 15 曲。
 2006 作。Topic)
- *BOB FOX:The Blast(2006 作。Topic) A
 *BOB FOX:Dreams Never Leave You A
 (ヴェテラン・トラッド・シンガー、B. Fox の本作は、何と Fairport がバックを固め
 た瑞々しいもの。Bob 自身 Fairport との川のよい付き合いを楽しむ
 かのように伸びやかな唄を披露する。2000 作。Woodworm)
- *SIMON MAYOR&HILARY JAMES:Duos B
 (魅惑の個性的なトラッド・シンガー、Hilary とマントリン音楽の道を探求する
 Simon のそれぞれの魅力が半々収められたライヴ 集。録音は 1999~
 2000 年。2001 作。Acoustics)
- *SOD' S OPERA:Come On Lads... B
 (副題“Canteen Songs Of World War Two”。95 作。Beautiful Jo)
- *ROUND CAPE HORN A
 (副題“Traditional Songs Of Sailors, Ships And The Sea”。Ewan
 MacColl, Frankie Armstrong, A. L. Lloyd, Peter Bellamy, Cyril
 Twaney, Watersons, Mike Waterson, Roy Harris, Louis Killen。98
 作。Topic)
- *JOHN KIRKPATRICK:Carolling&Crumpets C
 (J. Kirpatrick の各種ジヤハラの奏き語りクリスマス・アルバム。2006 作。
 Fledg'ling)
- *JOHN KIRKPATRICK・CHRIS PARKINSON:
 The Sultans Of Squeeze B
 (ジヤハラの巨人お二人によるジヤハラ二重奏パーティー！2005 作。
 Fledg'ling)
- *JOHN KIRKPATRICK:Orlando's Return B
 (副題“53 English Traditional Tunes”。メロディオン、コンサーティーナ、アコーディ
 オンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブラスキーでサポート。2000/2003
 作。Molly)
- *JOHN KIRKPATRICK:Carrick's Delight B
 (副題“48 English Traditional Tunes”。メロディオン、コンサーティーナ、アコーディ
 オンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブラスキーでサポート。2000/2003
 作。Molly)
- *GRAHAM METCALFE
 :Songs From Yorkshire And Other Civilisations A
 (1996 年作が CD 再発。Dave Burland の名作“The Dalesman's Litany”
 {偶然にも 1 曲目で“Dalesman's...”を取り上げているが}を想起
 させる見事な無伴奏トラッド・シンキングの世界だ。正にトラッド・シンキング
 の真髄。全 14 曲。96/2005 作。WildGoose)
- *ABBIE LATHE:Avebury(2003 作。Park) C
 *SHINING BRIGHT A
 (“The Songs Of Lal&Mike Waterson”。Performed by Maddy Prior,
 Norma Waterson, Eliza Carthy, Richard Thompson, Linda&Teddy

- Thompson, Blue Murder, Dick Gaughan, Helen Watson, Billy Bragg, Martin Carthy, Christy Moore, Christine Collister&Oliver Knight, etc. 2002 作。Topic)
- *ALONG THE COALY TYNE "Old And New Northumbrian Songs" A
(全 22 曲。Louis Killen, Johnny Handle, Tom Gilfellon, Colin Ross, Alistair Anderson。98 作。Topic)
- *LYRA CELTICA: Lyra Celtica C
(ノサンパ-ランドのトリオ。ムム-は元 JSD Band のフイダーの Chuck Fleming に"Young Traditional Musician Of The Year" 賞受賞者の名アコ奏者の Lynn Tocker にバウ-ン他名打楽器奏者の Frank McGuire。Lyra の緩急自在なアコを要に Chuck と Frank がかぶさるスタイルでノサンパ-ランド、アイルランド、スコットランドのトラッドを硬軟織り交ぜて楽しませる。2005 作。Lyra Celtica)
- *JON LOOMES: Fearful Symmetry A
(若きトラッド・シンガーでギター奏者の Jon はイングランドのトラッド・ソングとダンスの伝統をばっちりキープした生え抜き。音楽性とギターのスタイルは多くの部分で Martin Carthy と重なるが若い分、勢いがある。w. Paul Scourfield{メロディオン}, Michael Beeke{リコーダー、イングリッシュ・パイプス}, Philip G. Martin{ハーモニカ・ギター}。2005 作。Fellside)
- *GROSS CURRENT: Momentum B
(北イングランドからフレッシュ・デビューの女性 3 名と男性 2 名{出身地はイングランド、ノサンパ-ランド、アイルランド}の若き 5 人組。バウ-ン、ギター、ブザーキ、フルト、フイドル、ヴァイオリンによる演奏はイングランド、ノサンパ-ランド、スコットランド、アイルランドの音楽がクロスしたフレッシュでグル-ヴ感ある音楽。音楽の質も完成度も高い。加えて男女のシンギングも気高く清楚で模範的。2005 作。CrossCurrent)
- *JOLLY JACK&FRIENDS: Rolling Down To Old Maui A
(Steve Turner, Richard Grainger, Barry Skinner, Linda Adams, Patti Reid 他のトラッド・ヴォーカル・グループ。99 作。Fellside)
- *TICKLED PINK: Terpsichore Polyhymnia A
(Simon Care, Guy Fletcher, Bob Kay, Trevor Landen, Gerald Claridge, Mark Hutchinson のラインナップの最強のフォーク・ロック・バンド。2005 作。Talking Elephant)
- *WHAPWEASEL: Skirl Naked A
(98 年作の 1 枚目。5 人組で Dave Ainsley のメロディオンを中心にこじんまりとまとまったエレクトリック・カントリー・ダンス。3 枚目のショック後聴くと初々しく端正な印象。Old Swan と Tiger Moth の中間的。Produced by Rick Kemp。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL: Burn A
(サクスの Fiona と Stuart が加入し 7 人組になった Whapweasel の限りなく 3 枚目に近い 2 枚目。何といてもアコが抜群! Produced by Rick Kemp。2000 作。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL: Relentless A
(英国各地のフォーク・フェスで大人気の 8 人組エレクトリック・カントリー・ダンス・バンドの 3 枚目。2003 作。Whapweasel)
- *JACQUI McSHEE' S PENTANGLE: Passe Avant C

(メンバーは Jacqui McShee {ウォーカル}, Gerry Conway {トラムス}, Spencer Cozens {キーボード}, Alan Thomson {ベース}, Jerry Underwood {サククス}。
ゲスト: John Giblin, Miles Bould。99 作。Park)

- *ED RENNIE: Narrative A
(一人ギター、シタールを爪弾き唄うトラッドの数々はとても自然。唄によっては Martin Carthy を想起させる味わいのものもあるが、Ed のシンギングには暖炉の温もりのようなものが感じられる。いい人のいい音楽だ。2004 作。
Fellside)
- *HEKETY: Furze Cat A
(あの Crucible のメンバー4名の内3名がメンバーのイングリッシュ・ダンス・バンドの Hekety のイングラント各地の勢いあるダンス曲のオンパレード。凄くカッコいい。2004 作。WildGoose)
- *WATERSON・CARTHY: Holy Heathens And The Old Green Man A
(クリスマス期のキャルや伝承歌を中心に選曲された Norma&Eliza Watersons, Martin Carthy, Tim Van Eyken の Waterston:Carthy のアルバム。ウォーカル・グループ "Devil's Interval" をゲストに迎え、めでたい日の健やかな合唱を中心にした Watersons 家の伝統回帰のシンギング・アルバム。2006 作。Topic)
- *NORMA WATERSON: Norma Waterston A
(w. Eliza&Martin Carthy, Richard Thompson, Danny Thompson, Roger Swallow。96 作。Hannibal)
- *MARTIN CARTHY AND DAVE SWARBRICK A
: Both Ears And The Tail
(ご存知 1966 年 Nottingham の Folkus Folk Club でのライブ。Swarb が Fairport に加入する 69 年までの 3 年間 Martin&Dave で活動。ほとんどのメンバーは Martin の初期のアルバムに収録されてはいるが、ここでは全曲編曲され直された形で即興性高く演奏されていて、臨場感抜群。2001 作。Gadfly)
- *WATERSONS: The Definitive Collection ¥1880
(過去 30 年の Topic 収録の音盤からの 19 曲入編集 CD。2003 作。
Highpoint)
- *ELIZA CARTHY&NANCY KERR: Shape Of Scrape B
(今や伝説の Eliza&Nancy による 2nd。95 作。Mrs. Casey)
- *STEELEYE SPAN: Hark! The Village Wait (70 作。Shanachie) A
- *STEELEYE SPAN: Parcel Of Rogues (73 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN: Storm Force Ten (リマスター。77 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN: Sail On Silver B
(80 作。3 曲のボーナス・トラック {96 年のライブ 2 曲と 97 年のライブ 1 曲} 付。
Park)
- *STEELEYE SPAN: The Lark In The Morning A
(初期 Steeleye のアルバムからの 33 曲入編集 CD。2 枚組。Sanctuary)
- *STEELEYE SPAN: Individually & Collectively A
(Steeleye, Martin Carthy, Tim Hart, Maddy Prior の音源 {1971&1972 年} からの編集盤。全 12 曲。2000 作。Edsel)
- *MADDY PRIOR: Changing Winds (リマスター。78 作。BGO) C

- *MADDY PRIOR&JUNE TABOR:Silly Sisters a
(宝物。76作。Shanachie)
- *JUNE TABOR:A Cut Above(80作。with Martin Simpson。Topic) a
- *JUNE TABOR:A Quiet Eye(99作。Topic) a
- *PETER BELLAMY:Wake The Vaulted Echoes ¥2980
(マルチメディア機能付3枚組CD。57曲中16曲が未発表曲で、16曲がレア曲。
故 Peter Bellamy のあの魂のこもった心揺さぶられるシンキングが蘇
る。マルチメディアでは、ライヴビデオにインタビュー、おしゃべり、レクチャー等様々
な角度から P. Bellamy が捧げる。20世紀の大作。99作。Free Reed)
- *THE HUSH:Dark To The Sky C
(Hedgehog Pie の Bob Fox と Jed Grimes を中心に結成された北イング
ランドのフォークグループ。2002作。MWM)
- *SIMON HAWORTH:Taking Routes A
(心が真っ直ぐな純良フォーク&トラッド・シンガーの S. Haworth の Fellside か
らの2枚目。北イングランドの香り漂うフォーク〜トラッド・サウンドと印象にく
つきりと残る美しい唄は深呼吸したいほど。w. Stewart Hardy {フィ
ドルが良く唄う}, Steve Lawrence, Andy May {ノースブリアン・ハイツ いい
なあ}, Terry Haworth, Rachel Unthank。2003作。Fellside)
- *HARRY COX:The Bonny Labouring Boy D
(副題“Traditional Songs&Tunes from a Norfolk from Worker”。
ノフォークの偉大なトラッド・シンガーの45年から70年の未発表曲集。2枚組。
P60の解説書付。英国民衆歌の遺産。2000作。Topic)
- *THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER B
(20世紀を代表するイングランドのコンサーティナ奏者&モリス・ダンサー W. Kimber
{1872-1961}の未発表曲を多数含む32曲入マルチメディア機能付編集CD。
2冊の解説書付でマルチメディアには45枚の写真とフィルムやイラスト等多数が
収録されている。99作。EFDSS)
- *WALTER PARDON:A World Without Horses A
(イングランドを代表するトラッド・シンガーの一人。74-80年に W. Pardon の
自宅で録音されたもので、イングランドの有名トラッド曲を多く含む全
20曲。詳細解説付。2000作。Topic)
- *THE HIGH LEVEL RANTERS:Gateshead Revisited a
(CD-R。90作。メンバーは Johnny Handle, Colin Ross, Jim Hall の3名。こ
こでの HLR の唄と演奏は、より大衆的なもの。ノースブリアン・ランド・スモール・パ
ブスの心に響く曲やコミカルな唄など、より北イングランドの人々の心を
豊かにするもの。フォーク・ミュージックの原点。90/99作。Common Ground)